

2004 年度 工学部都市環境システム学科 B コース 授業科目一覧表

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
TJ001001	都市環境システムセミナー	2.0	1 年前期火曜 7 限	都市環境全教官	都 B 4
TJ000101	造形演習 B I	2.0	1 年前期火曜 6 限	宮崎 清	都 B 5
TJ000201	造形演習 B II	2.0	1 年後期火曜 6 限	宮崎 清	都 B 6
TJ003001	図学演習 (都市環境システム学科 B コース用)	2.0	1 年前期水曜 7 限	(大藤 晃義)	都 B 7
TJ003002	図学演習 (都市環境システム学科 B コース用)	2.0	1 年後期水曜 7 限	(大藤 晃義)	都 B 7
TJ004001	都市環境システム学外演習	2.0	1 年通期集中	(加藤 泰)	都 B 8
TJ006001	都市環境基礎演習 I (計画系クラス)	2.0	1 年後期土曜 3,4 限	三国 政勝 ^他	都 B 8
TJ006003	都市環境基礎演習 I (エンジニアリングクラス)	2.0	1 年後期土曜 3 限	(小宮 一仁)	都 B 10
TJ045001	構造力学	2.0	2 年前期土曜 1 限	(市原 嗣久)	都 B 10
TJ045002	構造力学	2.0	2 年前期土曜 1 限	上杉 英樹	都 B 11
TJ008001	プログラミング言語	2.0	2 年前期月曜 7 限	(吉野 進也)	都 B 11
TJ009001	プログラミング演習	2.0	2 年前期火曜 7 限	(吉野 進也)	都 B 12
TJ013001	都市環境基礎演習 II (計画系クラス)	2.0	2 年前期土曜 3,4 限	(山添 文隆) ^他	都 B 12
TJ013002	都市環境基礎演習 II (エンジニアリングクラス)	2.0	2 年前期土曜 2 限	上杉 英樹	都 B 13
TJ013003	都市環境基礎演習 II (エンジニアリングクラス)	2.0	2 年前期土曜 2 限	(市原 嗣久)	都 B 13
TJ014001	メディアプランニング演習 I (MPIA メディア演習)	2.0	2 年前期水曜 7 限	檜垣 泰彦	都 B 14
TJ014002	メディアプランニング演習 I (MPIB 情報演習)	2.0	2 年前期水曜 7 限	須貝 康雄	都 B 15
TJ014003	メディアプランニング演習 I (MPIC 数理演習)	2.0	2 年前期水曜 7 限	(川瀬 眞)	都 B 15
TJ014004	メディアプランニング演習 I (MPID 力学の基礎演習)	2.0	2 年前期水曜 7 限	小林 謙一	都 B 16
TJ073001	都市環境基礎工学	2.0	2 年前期月曜 6 限	中込 秀樹	都 B 16
TJ072001	都市環境プロデュース I	2.0	2 年前期水曜 6 限	柘植 喜治	都 B 17
TJ071001	グラフ理論	2.0	2 年前期木曜 6 限	須貝 康雄	都 B 18
TJ071002	グラフ理論	2.0	2 年前期火曜 3 限	須貝 康雄	都 B 19
TJ030001	建築一般構造	2.0	2 年前期水曜 7 限	(清水 敬三)	都 B 20
TJ057101	環境工学 I	2.0	2 年後期金曜 6 限	(斎藤 満)	都 B 21
TJ069001	回路理論 I	2.0	2 年前期月曜 6 限	山口 正恆	都 B 22
TJ015001	専門英語 I	2.0	2 年前期金曜 6 限	柘植 喜治	都 B 23
TJ015002	専門英語 I	2.0	2 年前期水曜 6 限	池田 宏明 ^他	都 B 23
TJ027101	プロジェクト研究 BI	2.0	2 年通期集中	小林 秀樹 ^他	都 B 24
TJ016001	専門英語 II	2.0	2 年後期月曜 6 限	(Jack Leaver)	都 B 24
TJ016002	専門英語 II	2.0	2 年後期火曜 6 限	(ジェーン 弘子 ゴールストン)	都 B 25
TJ075001	情報理論	2.0	2 年後期水曜 6 限	須貝 康雄	都 B 26
TJ046101	都市施設生産	2.0	2 年後期集中	(田辺 繁彦)	都 B 27

2004 年度 工学部都市環境システム学科 B コース シラバス

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
TJ020101	都市環境デザイン	2.0	2年後期水曜 6 限	北原 理雄	都 B 28
TJ021001	都市居住計画	2.0	2年後期水曜 7 限	森永 良丙	都 B 29
TJ022001	都市防災科学	2.0	2年後期木曜 7 限	中井 正一	都 B 30
TJ025001	環境プランニング演習 I (計画系クラス)	2.0	2年後期土曜 4,5 限	(井坂 幸恵) 他	都 B 31
TJ025003	環境プランニング演習 I (エンジニアリングクラス)	2.0	2年後期土曜 4,5 限	石田 理永	都 B 31
TJ026001	メディアプランニング演習 II (MPIIA 情報通信演習)	2.0	2年後期水曜 7 限	塩田 茂雄	都 B 32
TJ026002	メディアプランニング演習 II (MPIIB 電気基礎実験)	2.0	2年後期水曜 7 限	山本 一雄	都 B 32
TJ026003	メディアプランニング演習 II (MPIIC 熱流体演習)	2.0	2年後期水曜 7 限	前野 一夫	都 B 33
TJ026004	メディアプランニング演習 II (MPIID 化学システム)	2.0	2年後期水曜 7 限	(塩島 壯夫)	都 B 33
TJ074001	コンピュータネットワーク	2.0	2年後期火曜 7 限	池田 宏明	都 B 34
TJ076001	信頼性工学	2.0	2年後期月曜 7 限	山崎 文雄	都 B 34
TJ077001	都市環境プロデュース II	2.0	2年後期木曜 6 限	柘植 喜治	都 B 35
TJ078001	都市環境共生	2.0	2年後期金曜 6 限	立本 英機	都 B 35
TJ028001	建築計画	2.0	3年前期月曜 7 限	小林 秀樹	都 B 36
TJ029101	環境構成材料	2.0	3年前期金曜 6 限	近藤 吾郎	都 B 37
TJ068001	都市建築デザイン	2.0	3年前期木曜 6 限	宇野 求	都 B 38
TJ033001	コミュニティエンジニアリング I	2.0	3年前期集中	都市環未定	都 B 39
TJ035101	材料実験演習	2.0	3年前期火曜 6,7 限	(岡本 晴彦) 他	都 B 39
TJ038001	都市環境エネルギー論 I	2.0	3年前期水曜 7 限	前野 一夫	都 B 40
TJ039001	通信環境システム I	2.0	3年前期水曜 6 限	伊藤 公一	都 B 40
TJ040001	環境プランニング演習 II (計画系クラス)	2.0	3年前期土曜 3,4 限	(中谷 正人) 他	都 B 41
TJ040003	環境プランニング演習 II (エンジニアリングクラス)	2.0	3年前期土曜 3,4 限	山崎 文雄	都 B 42
TJ041001	メディアプランニング演習 III	2.0	3年前期土曜 3 限	大坪 泰文 ^他	都 B 42
TJ042001	都市環境システム特別セミナー I	2.0	3年前期集中	都市環未定	都 B 43
TZ021001	応用数学 I	2.0	3年前期集中	(笹本 明)	都 B 44
TJ079001	都市計画 I	2.0	2,3 年後期月曜 7 限	(原 昭夫)	都 B 45
TJ081001	システム材料力学/演習	2.0	3年前期木曜 7 限	小林 謙一	都 B 46
TJ083001	地域環境計画	2.0	3年前期金曜 7 限	三国 政勝	都 B 46
TJ043001	都市環境システム実習	2.0	3年通期集中	宇野 求 ^他	都 B 47
TJ044101	プロジェクト研究 BII	2.0	3年通期集中	宇野 求 ^他	都 B 48
TJ045201	構造力学 II	2.0	3年後期土曜 1 限	近藤 吾郎	都 B 48
TJ047101	都市建築法規・行政	2.0	3年後期火曜 7 限	(松柴 慎吾)	都 B 49
TJ050001	コミュニティエンジニアリング II	2.0	3年後期土曜 4 限	(小宮 一仁)	都 B 50
TJ051001	都市環境エネルギー論 II	2.0	3年後期水曜 6 限	佐藤 建吉	都 B 50
TJ052001	通信環境システム II	2.0	3年後期金曜 6 限	吉村 博幸	都 B 51

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
TJ080001	情報システム	2.0	3 年後期土曜 1 限	須貝 康雄	都 B 52
TJ060001	システム評価	2.0	3 年後期月曜 7 限	塩田 茂雄	都 B 53
TJ084001	環境エネルギー化学	2.0	3 年後期火曜 6 限	小倉 裕直	都 B 54
TJ085001	環境材料化学	2.0	3 年後期木曜 6 限	大坪 泰文	都 B 55
TJ082001	都市計画 II	2.0	3 年前期水曜 6 限	宮脇 勝	都 B 56
TJ086001	都市計画 III	2.0	3 年後期木曜 6 限	村木 美貴	都 B 57
TJ055001	環境プランニング演習 III (計画系クラス)	2.0	3 年後期土曜 2,3 限	(佐藤 文) 他	都 B 58
TJ055003	環境プランニング演習 III (エンジニアリングクラス)	2.0	3 年後期土曜 2 限	近藤 吾郎	都 B 58
TJ056002	メディアプランニング演習 IV (MPI-IIA 情報通信システム設計)	2.0	3 年後期土曜 2,3 限 後期土曜 4 限	(今井 哲郎)	都 B 59
TJ056004	メディアプランニング演習 IV (MPI-IIB1 化学プロセス)	2.0	3 年後期木曜 5 限	(塩島 壯夫)	都 B 59
TJ056005	メディアプランニング演習 IV (MPI-IIB2 エネルギーシステム設計)	2.0	3 年後期月曜 7 限	(藤間 克巳)	都 B 60
TJ058101	環境工学 II	2.0	4 年前期月曜 6 限	宮田 紀元	都 B 60
TJ059101	建築経営論	2.0	4 年前期水曜 6 限	(田中 修一)	都 B 61
TJ061001	環境基礎解析 II	2.0	4 年前期水曜 6 限	腰越 秀之	都 B 62
TJ063001	都市環境マネジメント I	2.0	4 年前期木曜 7 限	(塩島 壯夫)	都 B 63
TJ064001	都市環境システム特別セミナー II	2.0	4 年前期集中	都市環未定	都 B 64
TJ065101	卒業演習	2.0	4 年前期集中	大坪 泰文 ^他	都 B 64
TJ065301	卒業研究	4.0	4 年後期集中	都市環境全教官	都 B 64
TJ066001	都市環境マネジメント II	2.0	4 年後期木曜 6 限	(鈴木 直人)	都 B 65

授業科目名： 都市環境システムセミナー

科目英訳名： Seminar: Introduction to Urban Environment Systems

担当教官： 都市環境全教官

単位数： 2.0 単位

開講時限等： 1 年前期火曜 7 限

授業コード： TJ001001

講義室： 工 17 号棟 111 教室, 工 17 号棟 113 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TI:物質 A				その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)
TI1:物質 A 化学 物質化学				その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)
TI2:物質 A 機能 物質機能				その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)
TI3:物質 A 物性 物質物性				その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)
TJ:都市環境 B	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)		
TJ1:都市環境 環 境	専門基礎 選択必修 (E20)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門基礎 選択必修 (E20)						

[授業の方法] 講義

[目的・目標] 都市環境システムの学問を学ぶ人達を対象に、環境プランニングコースやメディアプランニングコースの双方の学問のみならず、広い範囲の学問について、勉学の方法や態度、問題意識や関心の持ち方などについて、学びつつ考察して行く。

[授業計画・授業内容] 下記にあるセミナー (1)～セミナー (11) は各教育研究分野の教育内容・研究内容等の説明である。

1. ガイダンス
2. 総合説明会 1:計画系
3. 総合説明会 2:メディア系
4. 総合説明会 3:計画・エンジニアリング系
5. セミナー (1)
6. セミナー (2)
7. セミナー (3)
8. セミナー (4)
9. セミナー (5)
10. セミナー (6)
11. セミナー (7)
12. セミナー (8)
13. セミナー (9)
14. セミナー (10)
15. セミナー (11), レポート提出

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] 出席とレポート点により評価

[備考] 4月に履修のためのガイダンスを行うので掲示に注意すること

授業科目名：造形演習 B I
 科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.)A
 担当教官：宮崎 清
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ000101

開講時限等：1 年前期火曜 6 限
 講義室：工 2 号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ:都市環境 B	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)				
TJ1:都市環境 環 境	専門基礎 選択必修 (E20)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門基礎 選択必修 (E20)						

[授業の方法] 演習

[授業概要] 「工学」とは「ものづくり」であり、「ものづくり」とは「造形」である。「造形演習」は、いくつかの「造形」に関する課題を通して、「工学＝ものづくり」に対する関心を鼓舞し、学生のひとりひとりが有する造形の資質を覚醒する。

[目的・目標] 本演習の具体的な目的は、以下のようである。(1)「学び取る」姿勢を培う。(2)多面的な観察能力を養う。(3)多様な解の存在を認識する。(4)プレゼンテーション能力を涵養する。「造形演習」の4つの課題のひとつひとつには、限られた時間のなかで精一杯にチャレンジし、満足するまで成し遂げることが求められている。頭脳と手とを連動させ、「手を動かし、汗をかき、想いをめぐらし、創る」まさに「手汗想創」を体感する。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンス
2. 第1課題：「鉛筆による精密描写」
3. 第1課題の演習
4. 第1課題の講評
5. 第2課題：「展開図に基づいた立体物の描写」
6. 第2課題の演習
7. 第2課題の講評
8. 中間発表会
9. 第3課題：「ランプシェードの制作」
10. 第3課題の演習
11. 第3課題の講評
12. 第4課題：「飛行体の造形」
13. 第4課題の演習
14. 第4課題の講評
15. 展示会

[キーワード] 観察・思索，デザイン，手汗想創，プレゼンテーション

[教科書・参考書] 特にありません。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、作品・プレゼンテーションの状況に基づいて行います。

[関連科目] 特にありません。

[履修要件] 特にありません。

[備考] 特にありません。

授業科目名：造形演習 B II

科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.)B

担当教官：宮崎 清

単位数：2.0 単位

開講時限等：1 年後期火曜 6 限

授業コード：TJ000201

講義室：工 2 号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ:都市環境 B	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	その他 (Z99)	その他 (Z99)		
TJ1:都市環境 環 境	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 「工学」とは「ものづくり」であり、「ものづくり」とは「造形」である。「造形演習」は、いくつかの「造形」に関する課題を通して、「工学＝ものづくり」に対する関心を鼓舞し、学生のひとりひとりが有する造形の資質を覚醒する。

[目的・目標] 本演習の具体的な目的は、以下のようである。(1)「学び取る」姿勢を培う。(2)多面的な観察能力を養う。(3)多様な解の存在を認識する。(4)プレゼンテーション能力を涵養する。「造形演習」の4つの課題のひとつひとつには、限られた時間のなかで精一杯にチャレンジし、満足するまで成し遂げることが求められている。頭脳と手とを連動させ、「手を動かし、汗をかき、想いをめぐらし、創る」まさに「手汗想創」を体感する。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンス
2. 第1課題：「廃材を活用してのモビールの制作」
3. 第1課題の演習
4. 第1課題の講評
5. 第2課題：「線描画面の作成」
6. 第2課題の演習
7. 第2課題の演習
8. 第2課題の講評
9. 第3課題：「工学部キャンパス内に設えるスツールの制作」
10. 第3課題の演習
11. 第3課題の演習
12. 第3課題の演習
13. 第3課題の講評
14. 総合講評
15. 展示会

[キーワード] 観察・思索，デザイン，手汗想創，プレゼンテーション

[教科書・参考書] 特にありません。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、作品・プレゼンテーションの状況に基づいて行います。

[関連科目] 特にありません。

[履修要件] 特にありません。

[備考] 特にありません。

授業科目名： 図学演習（都市環境システム学科 B コース用）
 科目英訳名： Descriptive Geometry
 担当教官：（大藤 晃義）
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ003001

開講時限等： 1 年前期水曜 7 限
 講義室： 工 17 号棟 212 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF3:デザイン A メディアデザイン							専門基礎必修 (E10)
TJ:都市環境 B	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)		
TJ1:都市環境 環 境	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)

[目的・目標] 空間を把握し、操作、表現する能力を涵養し、デザインの思考展開および伝達手段として必要な三次元空間表示のため、基礎的図法の理論の学習と演習を行う。授業は二部構成とし、第一部は平行投影図法、第二部は中心投影図法からなる。

[授業計画・授業内容]（記述なし）

[評価方法・基準]（記述なし）

授業科目名： 図学演習（都市環境システム学科 B コース用）
 科目英訳名： Descriptive Geometry
 担当教官：（大藤 晃義）
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ003002

開講時限等： 1 年後期水曜 7 限
 講義室： 工 17 号棟 212 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF3:デザイン A メディアデザイン							専門基礎必修 (E10)
TJ:都市環境 B	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)		
TJ1:都市環境 環 境	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)

[目的・目標] 空間を把握し、操作、表現する能力を涵養し、デザインの思考展開および伝達手段として必要な三次元空間表示のため、基礎的図法の理論の学習と演習を行う。授業は二部構成とし、第一部は平行投影図法、第二部は中心投影図法からなる。

[授業計画・授業内容]（記述なし）

[評価方法・基準]（記述なし）

授業科目名： 都市環境システム学外演習
 科目英訳名： Field Seminar in Urban Environment Systems
 担当教官： (加藤 泰)
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ004001

開講時限等： 1 年通期集中
 講義室： 未定 (工学部)

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザイン A 建築					専門選択 (F30)		
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 50 名

[受講対象] 自学部他学科生 履修可;1-4 年

[授業概要] 演習対象は千葉県内、東京都内の建築群、街。これらを実際に観て、夫々のテーマに関して思索した内容をレポートにまとめて、提出する。受講者は社会人が多いため、各自の都合の付く日に対象の建築群、街を視察する。本年のテーマ数は5。授業は集中講義で、全て土曜日。授業では順次各テーマに関する一般論、及び視察対象について説明。

[目的・目標] 建築群、街のモノの面を中心として、それらのモノを使っている面も含めて建築群、街を観る様々な視点を習得する。それにより、建築、街創りに関わる際の自らの作法の礎を形成する

[授業計画・授業内容] 5月8日:講座全日程、内容、総論について。5月22日:第1課題:居住施設論及び視察対象について。6月19日:第2課題:商業施設論及び視察対象について、第1課題レポート提出。7月17日:第3課題:都市景観論及び視察対象について、第1課題の総括、第2課題レポート提出。10月9日:第4課題:都市交通論及び視察対象について、第2課題の総括、第3課題レポート提出。11月13日:第5課題:街の魅力論及び視察対象について、第3課題の総括、第4課題レポート提出。12月18日:第4課題の総括、第5課題レポートの提出。1月29日:第5課題の総括、1年間の総括。

[キーワード] 歩いた・観た・聞いた・考えた

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] 5テーマにたいする全てのレポートを提出。

[関連科目] なし

[備考] なし

授業科目名： 都市環境基礎演習 I (計画系クラス)
 科目英訳名： Basic Design of Urban Environment I
 担当教官： 三国 政勝, 檜垣 泰彦
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ006001, TJ006002

開講時限等： 1 年後期土曜 3,4 限
 講義室： 自然新棟 マルチメディア講義室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザイン A 建築					専門選択 (F30)		
TJ:都市環境 B	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TJ1:都市環境 環 境	専門必修 (F10)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法] 演習

[受入人数] 初回にクラス分けを実施

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 人間性回復の環境計画・ユニバーサルデザインの基礎 [趣旨] 20 世紀は都市化の時代であった。第 2 次、第 3 次産業の著しい発展に伴って農村から都市への大規模な人口移動を生じ、都市は膨張を続けてきた。様々な工業製品が次々と量産され、無数の建築物が建てられて、我々の生活は飛躍的に豊かになった。しかし、それらの発展は、一方で様々な歪みも発生させた。活動力や経済力に富む人々に適したダイナミックな都市環境は、高齢者や障害者などハンディを負った人々に多くの困難をもたらしている。また、効率第一主義で形成された狭小過密の人工環境が、現代人の心身を蝕みはじめている。21 世紀の環境形成においては、それらの矛盾を解決する必要があるが、そのための基本理念の一つとしてユニバーサルデザインの考え方を重視したい。この理念は、単に障害を持つ人への対応という限られた意味に止まらず、すべての人々にとって真に有益な環境、物品、サービスの提供をめざすものである。この演習は、その理念を具体的に実現するための思考訓練を目的とするが、同時に後に続く一連の環境系演習において必要となる表現手法の基礎を身につけることをもめざしている。デザインの基礎は自ら身体を動かし手を動かすことにあるが、今日の社会で不可欠になっているパソコン等の機器を活用した表現方法にも取り組みたい。

[目的・目標] 都市環境の課題について建築/都市デザインの発想を育て、構想し、まとめあげていく方法を学ぶためのレクチャーと基礎的トレーニングを行う。

[授業計画・授業内容] 【前半】バリアフリーの環境改善 - 小さなスケールからのアプローチ;ユニバーサルデザインは、本来ディテール抜きには成立しない。形の奇を衒い、ディテールを軽視した建築は、粗雑な物体にしかなり得ない。他者に対するきめ細かな配慮を身につけることが、建築やまちづくりに携わる技術者として最も重要な基礎である。訓練の素材として、学生にとって最も身近な環境の一部である千葉大学西千葉キャンパスの施設を対象とし、班分けによりエリアを分担する。各自が車いすや松葉杖などを使用して通路、ドア、スロープ、教室、トイレなどでの操作体験を行い、不都合点を点検する。各部分の寸法、身体の動き、操作に要する力などを正確に測定し、平面図、立面図、断面図、透視図などによる現状の表記および改善案の提示を行う。【後半】「農」のあるまちづくり - 大きなスケールからのアプローチ今日の都市環境はあまりに人工化されすぎ、自然の営みから離反している。我が国ではこれまで都市の郊外に大小さまざまな規模の住宅地が開発されてきたが、それらは旧来の農村環境との整合性を持たず、結果として広域的なスプロール現象を招来するものであった。しかし、今後はもっと自然に即した生活スタイルが望まれるようになり、それを実現するために農的環境と結びついた居住環境の形成が必要になると思われる。その試みとして、農地、里山、水路、宅地等の有機的連携をベースとした土地利用計画・環境整備計画を作成し、模型の制作やパソコンを活用してプレゼンテーションを行う。対象地域として、大学にほど近く、谷地、台地、里山などから成る日本の典型的農村環境が維持されている千葉市稲毛区の一部を設定する。度々現地に赴いて、体感によって場所性を確認しながら構想を練ること。

1. 10 月 2 日 前半課題説明・バリアフリーに関する学習
2. 16 日 バリア体験・プレゼン手法
3. 23 日 実測調査(自主作業)
4. 30 日 現状図面作成(自主作業)
5. 11 月 6 日 調査結果の報告・プレゼン手法
6. 13 日 改善案エスキス
7. 11 月 27 日 図面等提出 講評
8. 12 月 4 日 後半課題説明・プレゼン手法
9. 11 日 現地調査(自主作業)
10. 18 日 調査結果の報告・プレゼン手法
11. 1 月 8 日 計画案エスキス
12. 22 日 計画案エスキス
13. 29 日 最終提出 講評
14. 予備
15. 予備

[教科書・参考書] [参考文献]ユニバーサルデザイン、バリアフリーへの問いかけ、川内美彦 学芸出版社;図解バリアフリー百科、日比野正己、TBSブリタニカ;バリアフリー入門、もりすぐる、緑風出版;サイン環境のユニバーサルデザイン、田中直人・他、学芸出版社;高齢者・障害者に配慮の建築設計マニュアル、高橋儀平、彰国社;農の時代、進士五十八、学芸出版社;都会の百姓です。よろしく、白石好孝、コモンズ;都市近郊土地利用事典、建築知識;都市・農村の新しい土地利用戦略、日本都市計画家協会 学芸出版社;図説集落、日本建築学会、都市文化社;説得できるビジネスプレゼン 200 の鉄則、永山嘉昭、山崎紅、日経 BP 出版センター;

[評価方法・基準] 出席と課題提出物・プレゼンにより評価。

TJ006003

授業科目名： 都市環境基礎演習 I (エンジニアリングクラス)
 科目英訳名： Basic Design of Urban Environment I
 担当教官： (小宮 一仁)
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ006003

開講時限等： 1 年後期土曜 3 限
 講義室： 工 2 号棟 103 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザイン A 建築					専門選択 (F30)		
TJ:都市環境 B	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TJ1:都市環境 環 境	専門必修 (F10)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 都市環境の課題について建築 / 都市エンジニアリングの発想を育て、構想し、まとめあげていく方法を学ぶためのレクチャーと基礎的トレーニングを行う。

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 講義室注意 2 号棟 103 教室=小宮

TJ045001

授業科目名： 構造力学
 科目英訳名： Structural Mechanics
 担当教官： (市原 嗣久)
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ045001

開講時限等： 2 年前期土曜 1 限
 講義室： 工 17 号棟 211 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[目的・目標] 都市を構成する構造物には、それ自身の重量、積載される重量、地震や風による荷重などのさまざまな外力が作用する。これらの外力に対して安全な構造物を作るための力学の基礎について学習する。

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[評価方法・基準] (記述なし)

授業科目名： 構造力学
 科目英訳名： Structural Mechanics
 担当教官： 上杉 英樹
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ045002

開講時限等： 2 年前期土曜 1 限
 講義室： 工 17 号棟 212 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門必 修 (F10)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[目的・目標] 都市を構成する構造物には、それ自身の重量、積載される重量、地震や風による荷重などのさまざまな外力が作用する。これらの外力に対して安全な構造物を作るための力学の基礎について学習する。

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[評価方法・基準] (記述なし)

授業科目名： プログラミング言語
 科目英訳名： Computer Programming Languages
 担当教官： (吉野 進也)
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ008001

開講時限等： 2 年前期月曜 7 限
 講義室： メディア基盤センター実習室 2

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ:都市環境 B	専門選 択必 修 (F20)	専門選 択必 修 (F20)	専門選 択必 修 (F20)	専門選 択必 修 (F20)			
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必 修 (F20)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必 修 (F20)	専門選 択必 修 (F20)	専門選 択必 修 (F20)	専門必 修 (F10)	専門必 修 (F10)	専門必 修 (F10)	専門必 修 (F10)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 電子計算機に所定の機能を発揮させるための一連の手続きをあらかじめ指定するためのプログラミング言語の考え方について概観し、具体的なプログラミング言語として C 言語を取り上げ、その仕様と文法を教授する。

[目的・目標] 電子計算機に所定の機能を発揮させるための一連の手続きをあらかじめ指定するためのプログラミング言語の考え方について概観し、具体的なプログラミング言語として C 言語を修得させることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 1) コンピュータシステム操作の導入 2) vi editor の機能 3) 簡単な C プログラムの作成と実行 4) C 関数の学習 5) 独自作成 C 関数設計

[キーワード] C language, computer programming

[評価方法・基準] (記述なし)

授業科目名：プログラミング演習
 科目英訳名：Computer Programming Practice
 担当教官：(吉野 進也)
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ009001

開講時限等：2 年前期火曜 7 限
 講義室：メディア基盤センター実習室 2

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ1:都市環境 環境	専門選 択必修 (F20)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] 演習

[授業概要] プログラミング言語は人工言語であるが、自然言語と同様に実際に使用しないと身につかない。この観点から C 言語の仕様・文法の修得に併せて、具体的な問題を設定してそれに対するプログラミングを実習する。

[目的・目標] プログラミング言語は人工言語であるが、自然言語と同様に実際に使用しないと身につかない。この観点から C 言語の仕様・文法の修得に併せて、具体的な問題を設定してそれに対するプログラミングを実習することによって、独自にプログラミングできるようにすることを目的とする。

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[キーワード] C language, training, computer programming

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 「情報処理」を履修しておくこと。なお、「プログラミング言語」を並列受講すること。

授業科目名：都市環境基礎演習 II (計画系クラス)
 科目英訳名：Basic Design of Urban Environment II
 担当教官：(山添 文隆), 丸山 純
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ013001, TJ013004

開講時限等：2 年前期土曜 3,4 限
 講義室：未定 (工学部)

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザイン A 建築					専門選択 (F30)		
TJ:都市環境 B	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)				
TJ1:都市環境 環 境	専門必修 (F10)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法] 演習

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[目的・目標] 都市環境基礎演習 I に引き続き、建築 / 都市デザインあるいはエンジニアリングについて構想、企画し、計画を定め、環境として総合的にまとめあげていく方法を学ぶためのレクチャーと基礎的トレーニングを行う。

[授業計画・授業内容] 都市・建築の課題を解説し提案する能力を養うため、具体的なフィールドを設定して計画をまとめていく。受講生の計画案に対して適宜指導を行う。

[教科書・参考書] 適宜紹介。

[評価方法・基準] 出席と課題提出物により評価。

[履修要件] 都市環境基礎演習 I を履修していること。

授業科目名： 都市環境基礎演習 II (エンジニアリングクラス)
 科目英訳名： Basic Design of Urban Environment II
 担当教官： 上杉 英樹
 単位数： 2.0 単位
 開講時限等： 2 年前期土曜 2 限
 授業コード： TJ013002
 講義室： 工 17 号棟 211 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザイン A 建築					専門選択 (F30)		
TJ:都市環境 B	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)				
TJ1:都市環境 環 境	専門必修 (F10)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 都市環境基礎演習 I に引き続き、建築 / 都市エンジニアリングについて構想し、計画を定め、環境として総合的にまとめあげていく方法を学ぶためのレクチャーと基礎的トレーニングを行う。

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 都市環境基礎演習 I を履修していること。

授業科目名： 都市環境基礎演習 II (エンジニアリングクラス)
 科目英訳名： Basic Design of Urban Environment II
 担当教官： (市原 嗣久)
 単位数： 2.0 単位
 開講時限等： 2 年前期土曜 2 限
 授業コード： TJ013003
 講義室： 工 17 号棟 212 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザイン A 建築					専門選択 (F30)		
TJ:都市環境 B	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)				
TJ1:都市環境 環 境	専門必修 (F10)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 都市環境基礎演習 I に引き続き、建築 / 都市エンジニアリングについて構想し、計画を定め、環境として総合的にまとめあげていく方法を学ぶためのレクチャーと基礎的トレーニングを行う。

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 都市環境基礎演習 I を履修していること。

授業科目名：メディアプランニング演習 I (MPIA メディア演習)
 科目英訳名：Seminar for Media Planning I
 担当教官：檜垣 泰彦
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：2 年前期水曜 7 限
 授業コード：TJ014001
 講義室：工 17 号棟 214 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ1:都市環境環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境メ ディアメディア	専門必修 (F10)						

[授業の方法] 演習

[受入人数] 6 名

[授業概要] セキュアな Web プログラミングに必要な基礎知識の習得。

[目的・目標] メディアプランニングコースの学習において必要となる、各学問分野の基礎的なトレーニングを行う。特にこのクラスでは、重要なメディアである Web の技術、特に安全な動的 Web ページを作成するための Web アプリケーションの開発に必要な基礎的な知識を養う。

[授業計画・授業内容] 今年度は、基本的に指定の資料に沿って、順番に分担を決め、担当してもらいます。指定の資料を手がかりに関連事項を各自調査し、交代で発表してください。この演習では実習は行いません。

1. ガイダンス・クラス分け
2. Web サーバの基礎- インターネットの基礎知識
3. - インターネットにおけるデータ送受信の仕組み
4. - サーバの種類と機能
5. - Web サーバの基礎知識
6. - Web サーバでできること
7. - Web サーバをより便利にしている技術
8. - Web サーバ構築の実際
9. Web サーバのセキュリティ- クライアント側入力チェックの問題点
10. - クロスサイトスクリプティング
11. - Web ページとユーザ認証
12. - クエリストリングからの情報漏洩
13. - セッション変数の活用
14. - Web フォームの選択項目の危険性
15. 試験 (持ち込み不可)

[キーワード] インターネット, サーバ, Web プログラミング, セキュリティ

[教科書・参考書] 津守美弘:図解 Web サーバーのしくみ、ディーアート; IPA ISEC セキュア・プログラミング講座 (Web で取得可能)

[評価方法・基準] 毎回の出席・討論の内容と課題、最終回の試験などから総合的に評価する。

[備考] 2004 年度開講決定。

授業科目名：メディアプランニング演習 I (MPIB 情報演習)
 科目英訳名：Seminar for Media Planning I
 担当教官：須貝 康雄
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ014002

開講時限等：2 年前期水曜 7 限
 講義室：

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ1:都市環境 環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門必修 (F10)						

[授業の方法] 演習

[目的・目標] メディアプランニングコースの学習において必要となる、各学問分野の基礎的なトレーニングを行う。10 人程度の小人数クラスに分かれて、演習・実験などを行う。

[授業計画・授業内容] 次の 4 つのテーマに分かれて演習する。MPIA メディア演習 (CGI を題材にしてコンピュータ言語によるプログラミング演習を行う) MPIB 情報演習 (並列分散的情報処理を行うニューラルネットワークの数学的基礎を演習を通じて学ぶ) MPIC 数理演習 (セミナー形式で微分方程式の復習を兼ねるとともに、いくつかの方程式の数値計算を PC で行う) MPID 力学の基礎演習 (古典力学の各種演習問題を通じて力学的な考え方を涵養する)

1. ガイダンス・クラス分け

[評価方法・基準]

[履修要件] メディアプランニングコースに属する学生のみが履修することを原則とするが、クラスの人数に余裕がある場合には、若干名に限って環境プランニングコースの学生も履修することができる。

授業科目名：メディアプランニング演習 I (MPIC 数理演習)
 科目英訳名：Seminar for Media Planning I
 担当教官：(川瀬 眞)
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ014003

開講時限等：2 年前期水曜 7 限
 講義室：

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門必修 (F10)						

[授業の方法] 演習

[目的・目標] メディアプランニングコースの学習において必要となる、各学問分野の基礎的なトレーニングを行う。10 人程度の小人数クラスに分かれて、演習・実験などを行う。

[授業計画・授業内容] 次の 4 つのテーマに分かれて演習する。MPIA メディア演習 (CGI を題材にしてコンピュータ言語によるプログラミング演習を行う) MPIB 情報演習 (並列分散的情報処理を行うニューラルネットワークの数学的基礎を演習を通じて学ぶ) MPIC 数理演習 (セミナー形式で微分方程式の復習を兼ねるとともに、いくつかの方程式の数値計算を PC で行う) MPID 力学の基礎演習 (古典力学の各種演習問題を通じて力学的な考え方を涵養する)

1. ガイダンス・クラス分け

[評価方法・基準]

[履修要件] メディアプランニングコースに属する学生のみが履修することを原則とするが、クラスの人数に余裕がある場合には、若干名に限って環境プランニングコースの学生も履修することができる。

授業科目名：メディアプランニング演習 I (MPID 力学の基礎演習)
 科目英訳名：Seminar for Media Planning I
 担当教官：小林 謙一
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ014004

開講時限等：2 年前期水曜 7 限
 講義室：

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ1:都市環境 環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門必修 (F10)						

[授業の方法] 演習

[目的・目標] メディアプランニングコースの学習において必要となる、各学問分野の基礎的なトレーニングを行う。10 人程度の小人数クラスに分かれて、演習・実験などを行う。

[授業計画・授業内容] 次の4つのテーマに分かれて演習する。MPIA メディア演習（CGI を題材にしてコンピュータ言語によるプログラミング演習を行う）MPIB 情報演習（並列分散の情報処理を行うニューラルネットワークの数学的基礎を演習を通じて学ぶ）MPIC 数理演習（セミナー形式で微分方程式の復習を兼ねるとともに、いくつかの方程式の数値計算を PC で行う）MPID 力学の基礎演習（古典力学の各種演習問題を通じて力学的な考え方を涵養する）

1. ガイダンス・クラス分け

[評価方法・基準]

[履修要件] メディアプランニングコースに属する学生のみが履修することを原則とするが、クラスの人数に余裕がある場合には、若干名に限って環境プランニングコースの学生も履修することができる。

授業科目名：都市環境基盤工学
 科目英訳名：Environmental Engineering for Urban Infrastructure
 担当教官：中込 秀樹
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ073001

開講時限等：2 年前期月曜 6 限
 講義室：工 17 号棟 112 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			
TJ:都市環境 B	専門選 択必修 (F20)						
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] エネルギー問題と地球環境問題に関連する技術内容に関して習得する。

[目的・目標] 世界の総エネルギー予測では2030年頃から石油、天然ガス等の化石燃料が枯渇してくるため、再生可能エネルギーの有効活用が重要となります。この授業では廃棄物を有用なエネルギー源として考えた場合の評価方法、廃棄物処理システム、ダイオキシン等の有害物質、設計に必要な基礎技術、水素利用等の将来動向等に関する基礎知識の習得を目指します。

[授業計画・授業内容]

1. 廃棄物とは
2. 廃棄物処理技術 - 1

3. 廃棄物処理技術 - 2
4. 有害物質（ダイオキシン、他）について - 1
5. 有害物質（ダイオキシン、他）について - 2
6. 地球環境問題 - 1
7. 地球環境問題 - 2
8. 地球環境問題 - 3
9. 新エネルギー技術 - 1
10. 新エネルギー技術 - 2
11. 新エネルギー技術 - 3
12. 熱分解ガス化技術 - 1
13. 熱分解ガス化技術 - 2
14. メタン発酵技術 - 1
15. メタン発酵技術 - 2

[キーワード] エネルギー問題，地球環境問題，廃棄物，新エネルギー，ガス化，メタン発酵

[教科書・参考書] 資料は授業当日に配布します。

[評価方法・基準] 出席、簡単なレポート

[備考]

TJ072001

授業科目名： 都市環境プロデュース I
 科目英訳名： Urban Environment Produce I
 担当教官： 柘植 喜治
 単位数： 2.0 単位
 開講時限等： 2 年前期水曜 6 限
 授業コード： TJ072001
 講義室： 工 17 号棟 113 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
T.J:都市環境 B	専門選 択必修 (F20)						
T.J1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)						
T.J2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法] 講義

[目的・目標] 私たちは、都市環境のなかで遭遇するさまざまな事象や刺激を選択的に受容しながら、それぞれの生活を送っています。この授業では、それらの事象や刺激を情報という概念で把握し、安全で快適な都市生活環境における情報のあり方、そのデザイン手法について、具体的事例を紹介しながら、考察します。

[授業計画・授業内容]

1. 都市の情報とは
2. 都市を体験する
3. 都市を感じる（見る、嗅ぐ、味わう、聞く、触る）
4. 都市を記憶する
5. 都市を観察する
6. 都市を調べる
7. 都市を表す
8. 都市の価値を見つける
9. 都市に溢れる
10. 都市で見せる・隠す
11. 都市で演じる

12. 都市を動かす
13. 都市を楽しむ
14. 都市をプロデュースする
15. まとめ・小論文

[評価方法・基準] (記述なし)

TJ071001

授業科目名： グラフ理論
 科目英訳名： Graph Theory
 担当教官： 須貝 康雄
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ071001

開講時限等： 2 年前期木曜 6 限
 講義室： 工 17 号棟 212 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度							学科 コース	入学年度
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
T.J:都市環境 B	専門選 択必修 (F20)	TB:情報 B	1997 年 専門選 択 (F30)						
T.J1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)								
T.J2:都市環境 ス メディア メディア	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)		

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] グラフの定義、平面グラフ、最短経路問題、最大フロー問題、線形計画問題、組合せ問題等について具体例と共に解説する。

[目的・目標] ネットワークの基礎として、グラフ理論を学ぶ。

[授業計画・授業内容]

1. グラフとグラフ理論：グラフとは何か，グラフの例，グラフ理論の起源，グラフ理論の応用，グラフ理論の用語（点と枝，自明なグラフ，有限グラフ，多重枝，自己閉路，単純グラフ）
2. グラフ理論の用語（続き）：グラフの次数，孤立点，端点，グラフの次数と枝の数との関係，非負整数列がグラフ的であるとは
3. グラフ理論の用語（続き）：有向グラフ，有向グラフにおける正負の次数，同形，部分グラフ，点と枝の操作（点の除去，枝の開放除去と短絡除去）
4. グラフ理論の用語（続き）：多重グラフ，ラベルなしのグラフとラベル付きのグラフ，セクショングラフ（点セクショングラフ，枝セクショングラフ）
5. 道，連結グラフ，閉路，カットセット：単純な道，初等的な道，タイセット，有向道，橋
6. 連結成分と木：グラフの階数，木と補木，木と木の距離，木の初等変換，根，有向木（根付木）（親子，兄弟，先祖，子孫，葉，レベル，高さ）
7. 2 進木，基本閉路（基本タイセット）と基本カットセット，非可分成分
8. 非可分グラフと可分グラフ，関節集合（関節点），連結度と枝連結度，強連結成分，特殊な構造を持つグラフ（完全グラフ，クリーク，極大クリークと最大クリーク，2 部グラフ，完全 2 部グラフ，k 部グラフ，完全 k 部グラフ，k 色可能）
9. 正規グラフ，オイラーグラフ，ハミルトングラフ，平面グラフと双対グラフ：正規グラフ，オイラー閉路，オイラー道，ハミルトン閉路，ハミルトン道，同相なグラフ，平面グラフであるための条件，双対グラフの定義
10. グラフの窓と基底，双対グラフの描き方，補グラフ，グラフの行列（隣接行列，接続行列）
11. 閉路行列とカットセット行列：既約接続行列，基準点，木の個数，閉路行列，基本閉路行列，閉路行列と隣接行列の関係，カットセット行列，基本カットセット行列
12. 閉路行列とカットセット行列（続き）：既約接続行列・閉路行列・カットセット行列のランク，閉路行列とカットセット行列の関係，既約接続行列とカットセット行列の関係
13. ネットワークの基本問題：最大フロー問題とその解法，最小カットと最大フローとの関係
14. ネットワークの基本問題（続き）：最短経路問題とその解法，総合演習

15. 期末試験

[キーワード] グラフ, ネットワーク, 最大フロー, 最短経路, 線形計画

[教科書・参考書] 樋口龍雄 監修, 佐藤公男 著: グラフ理論入門-C 言語によるプログラムと応用問題, 日刊工業新聞社

[評価方法・基準] 第 15 回目の期末試験を除く講義回数の 3/4 以上の出席を期末試験受験資格とし、期末試験により成績評価する。なお、演習解答者については、期末試験の点数に演習点を加算する場合もある。

TJ071002

授業科目名: グラフ理論 科目英訳名: Graph Theory 担当教官: 須貝 康雄 単位数: 2.0 単位 授業コード: TJ071002	開講時限等: 2 年前期火曜 3 限 講義室: 工 17 号棟 214 教室
--	---

科目区分表

学科 コース	入学年度							学科 コース	入学年度
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TJ:都市環境 B	専門選 択必修 (F20)	TB:情報 B	1997 年 専門選択 (F30)						
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)								
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)		

[授業の方法] 講義

[受入人数] 80 名程度

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] グラフの定義、平面グラフ、最短経路問題、最大フロー問題、線形計画問題、組合せ問題等について具体例と共に解説する。

[目的・目標] ネットワークの基礎として、グラフ理論を学ぶ。

[授業計画・授業内容]

1. グラフとグラフ理論: グラフとは何か, グラフの例, グラフ理論の起源, グラフ理論の応用, グラフ理論の用語 (点と枝, 自明なグラフ, 有限グラフ, 多重枝, 自己閉路, 単純グラフ)
2. グラフ理論の用語 (続き): グラフの次数, 孤立点, 端点, グラフの次数と枝の数との関係, 非負整数列がグラフ的であるとは
3. グラフ理論の用語 (続き): 有向グラフ, 有向グラフにおける正負の次数, 同形, 部分グラフ, 点と枝の操作 (点の除去, 枝の開放除去と短絡除去)
4. グラフ理論の用語 (続き): 多重グラフ, ラベルなしのグラフとラベル付きのグラフ, セクショングラフ (点セクショングラフ, 枝セクショングラフ)
5. 道, 連結グラフ, 閉路, カットセット: 単純な道, 初等的な道, タイセット, 有向道, 橋
6. 連結成分と木: グラフの階数, 木と補木, 木と木の距離, 木の初等変換, 根, 有向木 (根付木)(親子, 兄弟, 先祖, 子孫, 葉, レベル, 高さ)
7. 2 進木, 基本閉路 (基本タイセット) と基本カットセット, 非可分成分
8. 非可分グラフと可分グラフ, 関節集合 (関節点), 連結度と枝連結度, 強連結成分, 特殊な構造を持つグラフ (完全グラフ, クリーク, 極大クリークと最大クリーク, 2 部グラフ, 完全 2 部グラフ, k 部グラフ, 完全 k 部グラフ, k 色可能)
9. 正規グラフ, オイラーグラフ, ハミルトングラフ, 平面グラフと双対グラフ: 正規グラフ, オイラー閉路, オイラー道, ハミルトン閉路, ハミルトン道, 同相なグラフ, 平面グラフであるための条件, 双対グラフの定義
10. グラフの窓と基底, 双対グラフの描き方, 補グラフ, グラフの行列 (隣接行列, 接続行列)
11. 閉路行列とカットセット行列: 既約接続行列, 基準点, 木の個数, 閉路行列, 基本閉路行列, 閉路行列と隣接行列の関係, カットセット行列, 基本カットセット行列
12. 閉路行列とカットセット行列 (続き): 既約接続行列・閉路行列・カットセット行列のランク, 閉路行列とカットセット行列の関係, 既約接続行列とカットセット行列の関係

13. ネットワークの基本問題：最大フロー問題とその解法，最小カットと最大フローとの関係
14. ネットワークの基本問題（続き）：最短経路問題とその解法，総合演習
15. 期末試験

[キーワード] グラフ，ネットワーク，最大フロー，最短経路，線形計画

[教科書・参考書] 樋口龍雄 監修，佐藤公男 著：グラフ理論入門-C 言語によるプログラムと応用問題，日刊工業新聞社

[評価方法・基準] 第 15 回目の期末試験を除く講義回数の 3/4 以上の出席を期末試験受験資格とし，期末試験により成績評価する。なお，演習解答者については，期末試験の点数に演習点を加算する場合もある。

[履修要件] 特別な事情がない限り，B コース学生はグラフ理論 (TJ071001) を受講すること。B コース 3 年次編入生のうち，グラフ理論 (TJ071001) と他の 3 年次用科目が重複している場合等，特別な事情がある場合に履修を認める。これに準ずる事情があり，受講したい場合は申し出ること。

TJ030001

授業科目名： 建築一般構造

科目英訳名： Structural Engineering

担当教官： (清水 敬三)

単位数： 2.0 単位

開講時限等： 2 年前期水曜 7 限

授業コード： TJ030001

講義室： 工 17 号棟 213 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TF4:デザイン A 建築					専門選 択科目 (F30)		
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門必 修 (F10)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[目的・目標] 都市空間を構成する構造物の役割について適切な理解と実行力が得られるよう，構造に関する枠組みの基本および重要事項を取り上げ，在来のコンセプトでは明記・定義されにくい分野も含めて，最新の知識や情報を伝達する。いわゆる構造分野に限定せず，建築業界全体に着目した学界，業界，官界の各分野の包括的な理解に留意する。

[授業計画・授業内容] 1) 何故構造を学か? 2) 都市計画者，建築家，エンジニアの役割と社会的使命，何故デザイナーが必要か? 社会のトータルデザインとは? 3) 建築の社会での構造の役割と実践 4) 構造設計を支える関連技術論 5) 防災と構造 6) 環境問題と構造 7) コンストラクションマネジメントと構造 8) リスクマネジメントと構造 9) 新しい建築基準法と構造 10) 建築構造分野トピックス 以上の話題を 15 回に分けて教授する。

[教科書・参考書] 特になし

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 特になし

授業科目名：環境工学 I
 科目英訳名：Environmental Science I
 担当教官：(斎藤 満)
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ057101

開講時限等：2 年後期金曜 6 限
 講義室：工 15 号棟 110 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)					
TJ1:都市環境環 境	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ2:都市環境メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 建築・都市環境における建築設備の役割とその重要性を学ぶ。まず空気調和設備の考え方とその構成を理解し、次に給排水設備の考え方とその構成を学ぶ。最後に省エネルギーと更新を念頭においた総合的な視点から建築設備計画の計画法について学ぶ。

[目的・目標] 建築設備は自由な建築デザインを可能にするための技術（装置）ではなく、その計画は総合的な視点からなされなければならない。本講では建築設備計画（主に機械設備）について、(1) 建築・都市と建築設備との基本的な関わりかたを考え、(2) 快適で安全な建築環境を創り出す建築設備の考え方とシステムの構成の仕方を理解して、(3) 効率的かつ将来を見据えた計画手法について学習する。

[授業計画・授業内容]

1. 建築・都市環境と建築設備
2. 快適で安全な建築環境
3. 空気調和設備の考え方 (1) 湿り空気線図 その 1
4. 空気調和設備の考え方 (1) 湿り空気線図 その 2
5. 空気調和設備の考え方 (1) 湿り空気線図 その 3
6. 空気調和設備の考え方 (1) 湿り空気線図 その 4
7. 空気調和設備の考え方 (2) システムの構成と計画手法
8. 空気調和設備の考え方 (3) 熱源システム
9. 空気調和設備の考え方 (4) 空調システム
10. 空気調和設備の考え方 (5) 熱搬送システム
11. 給排水衛生設備の考え方 (1) 生活活動およびシステムの構成と計画手法
12. 給排水衛生設備の考え方 (2) 給水システム
13. 給排水衛生設備の考え方 (3) 給湯システム
14. 給排水衛生設備の考え方 (4) 排水通気システム
15. 建築設備計画の考え方 (まとめ)

[キーワード] 建築・都市環境と建築設備, 湿り空気線図, 空調システム, 熱搬送システム, 熱源システム, 給水・給湯システム, 排水通気システム

[教科書・参考書] 教科書：「建築の設備」入門 空調・給排水衛生・防災・省エネルギー（彰国社刊・千葉大生協で販売）およびプリント配布 参考書：空気調和設備 設計・計画の実務の知識（オーム社）給排水衛生設備 設計・計画の実務の知識（オーム社）

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 3回～6回目の講義には電卓、スケール、三角定規（平行線を書く）を携行すること。平成 16 年 10 月 8 日は教室を 9 号棟 106 教室より 5 号棟 204 教室に移動します。平成 16 年 10 月 15 日以降は 15 号棟 110 教室で行う。

授業科目名：回路理論 I

科目英訳名：Electric Circuit Theory I

担当教官：山口 正恆

単位数：2.0 単位

授業コード：TJ069001

開講時限等：2 年前期月曜 6 限

講義室：工 17 号棟 111 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)				
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 50 名程度とする。

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可; A コース, B コースを問わず特に制限はしないが, 電子機械工学科の学生は在籍学科の講義を聴講すること。

[授業概要] 工学に必要な最小限の, 直流回路における電圧, 電流, 電力の物理的意味, 直並列接続, オームの法則, キルヒホッフの法則などの基礎知識を学ぶ。また, 交流回路における電圧, 電流の定義, コイル(インダクタ)とコンデンサ(キャパシタ)の働き, インピーダンスとアドミタンスの概念, これらの複素表現について学ぶ。余裕があれば, 網目解析法, 節点解析法, 電気回路の諸定理を学ぶことにより線形回路の解析法を習得する。

[目的・目標] 電気回路の基本的な考え方, 表現方法, 解析方法及び物理的現象の意味などの, 必ずしも電気電子工学を専門としなくても, 工学の基礎知識として必要な内容を学習する。特に, 演習問題を繰り返し解くことによって, これら基礎知識の理解を一層深め, 電氣的センスを身に付けることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 以下の予定は目安であり, 理解度によって適当に調整しながら進め, 余裕ができれば中間テストを行う。

1. 直流回路の基礎(電流, 電圧, 電力の意味)
2. 回路素子としてのコイルとコンデンサ
3. 直流回路の解析(1)(合成抵抗等)
4. 直流回路の解析(2)(キルヒホッフの法則, 演習)
5. 交流回路の基礎(電流, 電圧の表現法とそれらの実効値の意味)
6. 交流回路におけるコイルとコンデンサの働き
7. 基本回路のインピーダンスとアドミタンス(1)
8. 基本回路のインピーダンスとアドミタンス(2)
9. 共振回路
10. 交流回路の電力
11. 複素数の表現と算法と正弦波交流電圧と電流の複素数表現
12. インピーダンスとアドミタンスの複素数表現
13. インピーダンスとアドミタンスの合成
14. 交流電力の複素数表現
15. 期末試験

[教科書・参考書] 「基礎電気回路」斉藤制海、天沼克之、早乙女英夫共著、朝倉書店

[評価方法・基準] 出席は確認するが, 評価は主として試験の成績によって判定する。

[履修要件] 三角関数(指数関数)と, その微分, 積分, 及び行列などの基礎知識があることを前提とし, これらについては講義しない。

授業科目名： 専門英語 I
 科目英訳名： English for Urban Environment Systems I
 担当教官： 柘植 喜治
 単位数： 2.0 単位
 開講時限等： 2 年前期金曜 6 限
 授業コード： TJ015001
 講義室： 工 17 号棟 213 教室, 工 17 号棟 214 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザイン A 建築				専門選択 (F30)			
TJ:都市環境 B	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[目的・目標] 都市環境に関わる英文テキストの講読を通じて、専門的文章の読解力と表現力を養い、併せて国際的な視野で都市環境問題を考える理解力を育てる。

[授業計画・授業内容] 担当教官の指示に従い講義内容決定。

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 環境プランニングコース、メディアプランニングコースでそれぞれ 2 クラスずつ開講されるので、所属するコース内の 1 クラスを選択して受講すること。

授業科目名： 専門英語 I
 科目英訳名： English for Urban Environment Systems I
 担当教官： 池田 宏明,
 単位数： 2.0 単位
 開講時限等： 2 年前期水曜 6 限
 授業コード： TJ015002
 講義室： 工 17 号棟 213 教室, 工 17 号棟 215 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザイン A 建築				専門選択 (F30)			
TJ:都市環境 B	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] 講義・実習

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 都市環境に関わる英文テキストの講読を通じて、専門的文章の読解力と表現力を養い、併せて国際的な視野で都市環境問題を考える理解力を育てる。

[目的・目標] 都市環境に関わる英文テキストの講読を通じて、専門的文章の読解力と表現力を養い、併せて国際的な視野で都市環境問題を考える理解力を育てる。また、英語という言葉に引き続き興味を持たせる。

[授業計画・授業内容] 担当教官の指示に従い講義内容決定。

1. 専門英語とは？
2. 最終試験

[キーワード] English, international

[教科書・参考書] Stories for reproduction. ISO/IEC Directives

[評価方法・基準] 毎回の宿題 (40%) と最終試験 (60%) の成績による

[履修要件] 原則として、都市環境システム学科 B コースのメディアプランニングコースの学生が対象であるが、他の学生も受け入れる。

[備考] 毎週の宿題は mail で解答。添削は mail で返信。

TJ027101

授業科目名：プロジェクト研究 BI
 科目英訳名：Project Study BI
 担当教官：小林 秀樹, 須貝 康雄
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：2 年通期集中
 授業コード：TJ027101
 講義室：

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザイン A 建築					専門選択 (F30)		
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[目的・目標] 社会人学生が、社会生活の中で遭遇した各種の課題について、個人またはグループによる研究や討論を行う。

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 履修を希望する場合は必ず担任に申し出ること。過去に行った内容・テーマは関連 URL を参照のこと。単位取得には、1 年間の研究内容の発表(年度末)が義務付けられる。

TJ016001

授業科目名：専門英語 II
 科目英訳名：English for Urban Environment Systems II
 担当教官：(Jack Leaver)
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：2 年後期月曜 6 限
 授業コード：TJ016001
 講義室：工 17 号棟 211 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ:都市環境 B	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)					
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法]

[目的・目標] The basic goal of this class is discussion and communication in English about subjects that are relevant to Environmental Design.

[授業計画・授業内容] The class will cover two areas one major theme is about the environment and the other Architectural Design.

1. Class Introduction- The goals, methods and content of the class
2. Guanajuato, Mexico- The cityscape, planning, and Order of building in the City of Guanajuato, Mexico
3. General Design Discussion- The mind as the context for creative design
4. Why should this context have any impact or effect on designers? The importance of the context on creativity
5. Stimulating Designs- What kinds of environmental or architectural designs are stimulating and Why?
6. Consultation and Compassion-A view of a group design process

7. Science vs Religion-How should this effect architecture and the environment? The rational and Irrational aspects of Design
8. Creativity- How can we define creativity?
9. A new Aesthetic order for the coming of the next century? Can we describe a new aesthetic for this new century
10. Creative Process My perspective- How I look at the creative design process
11. Form, Order, Design- The Creative Process revolving around the concepts of Form, Order and Design
12. Summation Creative Process- A continuation of the previous discussion
13. General Discussion about Design and Creativity- What are students ideas about creativity and Design.
14. Mozuna-The ideas, themes, and issues in the architectural work of Japanese Architect, Kikkoo Mozuna
15. Computer Graphics- The basis of computer graphics, it's purpose and usage

[評価方法・基準] Your grade will be based on your attendance, participation in class and your homework assignments.

[備考] IMPORTANT: 1. Please hand in your work at the specified time or they will suffer the consequences of the grade being automatically lowered. 2. Please don't be late to class, if more than 10 minutes late you will receive a half absent for that day. 3. Attendance is required for this class. If you miss more than 5 classes you will fail this class. If you have some extenuating circumstances please tell me and we will adjust your record.

TJ016002

授業科目名 : 専門英語 II
 科目英訳名 : English for Urban Enviroment Systems II
 担当教官 : (ジェーン 弘子 ゴールストン)
 単位数 : 2.0 単位
 開講時限等: 2 年後期火曜 6 限
 授業コード : TJ016002
 講義室 : 工 17 号棟 211 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ:都市環境 B	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)					
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法]

[目的・目標] To acquire the necessary skills and techniques for making a formal p resentation in English related to the student's own studies in urban environment systems.

[授業計画・授業内容] 第一回目にクラス分けを行う。非常勤講師 Wichiens 先生の指示により教材決定。

1. Course Introduction Introductions and classroom expressions
2. Review of basic vocabulary and expressions for discussing cities
3. How to prepare and give a presentation
4. How to prepare and give a presentation
5. Power Point presentation and discussion: Banaras, City of Light
6. Reading and discussion: Lewis Mumford, first historian of cities
7. Reading and discussion: Jane Jacobs on American cities
8. Reading and discussion: Kitimat, a Canadian New Town carved out of the wilderness. Student Presentations and Feedback
9. Student Presentations and Feedback
10. Student Presentations and Feedback
11. Reading and discussion: Granville Island, urban renewal in Vancouver. Student Presentations and Feedback

12. Reading and discussion: largest development project in the Mediterranean in Haifa. Student Presentations and Feedback
13. Reading and discussion: Moral Leadership and Ethics for Engineering and Planning. Student Presentations and Feedback

[評価方法・基準] Attendance and class participation (50%) and student presentations (50%)

[備考] Please bring a good Japanese-English, English-Japanese dictionary with you to class.

TJ075001

授業科目名：情報理論
 科目英訳名：Information Theory
 担当教官：須貝 康雄
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ075001

開講時限等：2 年後期水曜 6 限
 講義室：工 17 号棟 212 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ:都市環境 B	専門選 択必修 (F20)						
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 80 名程度

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] ・通信と情報・情報源・情報源の符号化・通信路の符号化(初歩)・誤り訂正符号(初歩)・連続量と情報(PCM 符号化の原理)

[目的・目標] 情報・通信システムの基礎として C.E.Shannon の理論を学ぶ。

[授業計画・授業内容]

1. 情報理論とは?
2. 情報のとらえ方と情報源
3. 平均情報量の性質
4. 情報源(その1)
5. 情報源(その2)
6. 情報源符号化
7. 具体的符号化法
8. 通信路と相互情報量(その1)
9. 通信路と相互情報量(その2)
10. 通信路符号化
11. 誤り検出と訂正
12. 線形符号
13. 巡回符号(その1)
14. 巡回符号(その2)
15. 期末試験

[教科書・参考書] 教科書：平田廣則著「情報理論のエッセンス」, 昭晃堂

[評価方法・基準] 期末試験及び授業中の演習

授業科目名： 都市施設生産
 科目英訳名： Construction for Urban Development
 担当教官： (田辺 繁彦)
 単位数： 2.0 単位
 開講時限等： 2 年後期集中
 授業コード： TJ046101
 講義室： 工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)					
TJ1:都市環境環 境	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ2:都市環境メ ディアメディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 講義

[目的・目標] 1) 海外の経験を通じて、建設系のプロジェクト・マネジメントの本質や基本的な考え方を伝えること
 2) 日本の建築生産システムを客観的に見られる視点を提供すること

[授業計画・授業内容] 建設系プロジェクト・マネジメント 海外プロジェクトの経験を踏まえて

1. ガイダンス、概論 13/Dec/2004 (月) 6 限 目的、基本用語
2. 各国のプロジェクト・マネジメント (日本) 20/Dec/2004 (月) 6 限 比較のベースとして
3. 各国のプロジェクト・マネジメント (英国) 24/Jan/2005 (月) 6 限 歴史の検証
4. 各国のプロジェクト・マネジメント (米国) 29/Jan/2005 (土) 1, 2 限 建設系プラント・エンジニアリ
ングを含めて
5. 各国のプロジェクト・マネジメント (フランス) 同上 欧州大陸の方式
6. 各国のプロジェクト・マネジメント (シンガポール、中国) 05/Feb/2005 (土) 1,
2 限 アジアの市場
7. 海外プロジェクトのまとめ 同上 (レポート出題)
8. 不動産開発プロジェクト 07/Feb/2005 (月) 6 限
9. BOT、PFI 10/Feb/2005 (木) 6, 7 限
10. 課題と展望 14/Feb/2005 (月) 6, 7 限 (レポート提出)

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 注) 上記の内容は、現時点における講義の予定であり、実情に応じて変更されることがある。

授業科目名： 都市環境デザイン
 科目英訳名： Urban Environment Design
 担当教官： 北原 理雄
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ020101

開講時限等： 2 年後期水曜 6 限
 講義室： 工 15 号棟 110 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択必修 (F20)						
TF2:デザイン A インダストリアル デザ						専門選 択 (F30)	
TF3:デザイン A メディアデザイン						専門選 択 (F30)	
TF4:デザイン A 建築					専門選 択 (F30)		
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 講義・発表

[受入人数] 50 名程度

[受講対象] 受講者が都市空間の基本的把握・表現能力を備えていることを前提に講義を行うので、2 年次以降の受講が望ましい。

[授業概要] 都市空間の解読方法、およびその計画・デザインに関わる基本的アプローチを講義し、レポート課題で都市空間の把握・分析に取り組む。

[目的・目標] 人びとの生活の場である都市環境を的確に読み解き、そのあるべき姿を構想する力を身につけてもらうことが、この講義の目的である。都市空間のさまざまな特性と社会との相関、それを成り立たせている仕組みなどを、具体的な事例にもとづいて考察する。

[授業計画・授業内容]

1. 講義：都市への眼差し（街並みをつくる建築，都市空間の組み立て，広場とは何か？，見える秩序/見えない秩序）
2. 実習：自分の身体で測ってみよう（身体尺度による空間把握）
3. 講義：住まいと都市空間 1（環境を内包する住まい，集まって住まう形）
4. 講義：住まいと都市空間 2（街並みと住まい）
5. 講義：ケーススタディ ”Community-Based Development in New York”
6. 講義：都市の骨格 1（都市空間の組み立て方，都市空間の骨格と中身）
7. 講義：都市の骨格 2（街をつくる骨格）
8. 発表：レポート課題 1
9. 講義：広場と街路 1（広場の伝統，街路の文化）
10. 講義：広場と街路 2（人間の場所）
11. 講義：ケーススタディ ”Designing Communities with People”
12. 講義：行動空間と視覚空間 1（地形原理と幾何学原理，位相空間の構成原理）
13. 講義：行動空間と視覚空間 2（生きられる場所，関係をデザインする）
14. 発表：レポート課題 2
15. 発表：レポート課題 3

[キーワード] 都市空間，都市景観，街並み，街路，広場

[教科書・参考書] S. E. ラスムッセン：都市と建築，東京大学出版会（参考書）G. カレン：都市の景観，鹿島出版会（参考書）J. ゲール：屋外生活の生活とデザイン，鹿島出版会（参考書）

[評価方法・基準] レポートと出席を主体に成績評価を行う。レポートは3回出題し、水準に達しないものは再提出を求める。欠席5回以上は不可とする。

[履修要件] 「都市環境基礎演習 I・II」など、空間の把握・図面表現に関する基礎的科目を履修していることが望ましい。

[備考]

TJ021001

授業科目名： 都市居住計画
 科目英訳名： Urban Housing
 担当教官： 森永 良丙
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ021001

開講時限等： 2 年後期水曜 7 限
 講義室： 工 9 号棟 107 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択必修 (F20)						
TF2:デザイン A インダストリアル デザ					専門選 択 (F30)		
TF3:デザイン A メディアデザイン						専門選 択 (F30)	
TF4:デザイン A 建築					専門選 択 (F30)		
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 講義・演習

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 住まいに関する基礎知識の取得と問題意識の涵養を目指し、理論と実践の両方を具体的事例を紹介しつつ講義をすすめる。

[目的・目標] 住まいにまつわる現代的課題に対して、構想力をもって対峙できる専門性の基礎を得ることを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 都市居住計画概要
2. 住宅の歴史
3. 家族と住宅
4. コミュニティと住宅
5. 高齢者と住宅
6. 環境と住宅
7. 住宅の調査方法と計画理論
8. 住宅の計画 1
9. 住宅の計画 2
10. 住み手参加のデザイン・プロセス 1
11. 住み手参加のデザイン・プロセス 2
12. 持続型居住計画 1
13. 持続型居住計画 2
14. これからの都市居住計画の展望
15. まとめ・レポート出題

[キーワード] 住環境, 居住地, 住まい, コミュニティ, まちづくり

[教科書・参考書] 適宜紹介。

[評価方法・基準] 出席とレポートにより評価。

[関連科目] 建築計画

[履修要件] 特になし。

TJ022001

授業科目名： 都市防災科学
 科目英訳名： Disaster Prevention in Urban Environment
 担当教官： 中井 正一
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ022001
 開講時限等： 2 年後期木曜 7 限
 講義室： 工 2 号棟 103 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択必修 (F20)						
TF4:デザイン A 建築					専門選 択 (F30)		
TJ:都市環境 B	専門選 択必修 (F20)						
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)						
TJ2:都市環境 ス ディア メディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法] 講義

[授業概要] 都市の安全を脅かす災害のうち、地震と地震災害の特色を理解するとともに、地震時における構造物の挙動を理解し、耐震設計・防災計画の考え方を学ぶ。

[目的・目標] 都市の安全を脅かす要因として地震などの自然災害による構造物・地盤の被害を取り上げ、それぞれの発生メカニズムがどのようなものであるかを理解すると共に、これらの災害による被害を最少限に食い止めるための方法論の基礎を学ぶ。自然災害として地震を取り上げ、発生や伝播のメカニズム、振動理論の基礎、耐震設計の考え方、防災計画などについて講義する。

[授業計画・授業内容] 第 1 部：地震と地震災害（第 1 回：講義概要、地震被害の事例 / 第 2 回：地震の発生 / 第 3 回：地震と地震動 / 第 4 回：地震と地形・地盤）第 2 部：振動の理論（第 5 回：運動方程式 / 第 6 回：構造物のモデル化 / 第 7 回：1 質点系の振動 (1) / 第 8 回：中間テスト / 第 9 回：1 質点系の振動 (2) / 第 10 回：1 質点系の振動 (3) / 第 11 回：多質点系の振動 / 第 12 回：地盤の振動と構造物の振動）第 3 部：耐震設計と地震防災（第 13 回：耐震設計 / 第 14 回：地震防災 / 第 15 回：期末テスト）

1. 講義概要、地震被害の事例
2. 地震の発生
3. 地震と地震動
4. 地震と地形・地盤
5. 運動方程式
6. 構造物のモデル化
7. 1 質点系の振動 (1)
8. 中間テスト
9. 1 質点系の振動 (2)
10. 1 質点系の振動 (3)
11. 多質点系の振動
12. 地盤の振動と構造物の振動
13. 耐震設計
14. 地震防災
15. 期末テスト

[キーワード] 地震、被害、振動理論、耐震設計、地震防災

[教科書・参考書] 理工図書：地震と建築防災工学（主参考書）鹿島都市防災研究会編：大地震と都市災害（参考書）守屋喜久夫：新編地震災害と地盤・基礎（参考書）ほか

[評価方法・基準]（記述なし）

[関連科目] 環境プランニング演習 I

[履修要件] 力学や材料力学の知識を有することが望ましい。

[備考] 出席点（ミニテスト）、中間テスト、期末テストにより成績評価を行う

TJ025001

授業科目名：環境プランニング演習 I（計画系クラス）
 科目英訳名：Design and Planning of Urban Environment・
 担当教官：（井坂 幸恵）、（石渡 強治）
 単位数：2.0 単位 開講時限等：2 年後期土曜 4,5 限
 授業コード：TJ025001, TJ025002 講義室：未定（工学部）

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ						専門選択 (F30)	
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)						
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 演習

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[目的・目標] 都市・環境・建築のデザイントレーニングを通じて、都市空間と建築を構想、企画し、計画を定め、総合的デザインにまとめあげていく方法を学ぶ。住民、企業、行政、コンサルタントなど、まちづくりに係わるさまざまな主体の相互関係をデザインし、ディレクション・コーディネートする方法についてもトレーニングを行う。

[授業計画・授業内容] 都市・建築の課題を解説し提案する能力を養うため、具体的なフィールドを設定して計画をまとめていく。受講生の計画案に対して適宜指導を行う。

[教科書・参考書] 適宜紹介。

[評価方法・基準] 出席と課題提出物により評価。

[履修要件] 都市環境基礎演習 I、II を履修していること。

TJ025003

授業科目名：環境プランニング演習 I（エンジニアリングクラス）
 科目英訳名：Design and Planning of Urban Environment・
 担当教官：石田 理永
 単位数：2.0 単位 開講時限等：2 年後期土曜 4,5 限
 授業コード：TJ025003, TJ025004 講義室：工 17 号棟 211 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF2:デザイン A インダストリアル デザ						専門選択 (F30)	
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)						
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 都市環境基礎演習 I,II をふまえ、プログラムのより複雑で高度な建築・都市エンジニアリングについて構想し、計画を定め総合的にまとめあげるトレーニングを行う。

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 都市環境基礎演習 I、II を履修していること。

TJ026001

授業科目名：メディアプランニング演習 II (MPIIA 情報通信演習)
 科目英訳名：Seminar for Media Planning II
 担当教官：塩田 茂雄
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ026001
 開講時限等：2 年後期水曜 7 限
 講義室：工 9 号棟 206 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
T.J1:都市環境 環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
T.J2:都市環境 メ ディア メディア	専門必修 (F10)						

[授業の方法] 演習・実験

[目的・目標] メディアプランニングコースの学習において必要となる、各学問分野の基礎的なトレーニングを行う。10 人程度の小人数クラスに分かれて、演習・実験などを行う。

[授業計画・授業内容] 演習は下記の 4 班に分かれ学習する。第 1 回目にガイダンスと班分けを行うので掲示などに充分注意すること。1) 情報通信演習(情報通信ネットワークについて概要を講義し演習を行う) 2) 電磁気計測(電気、電子、電磁波に関する基礎実験およびコンピュータ実習を通して、これらの物理現象の把握、データ解析手法などを学ぶ) 3) 熱流体演習(主として熱力学を基礎とする伝熱工学、熱流体力学に対する学習と演習を行う。熱伝導、熱伝達と対流現象、輻射伝熱など基礎的概念を身につける) 4) 化学システムとしての循環系(都市における物質の変化とエネルギーの流れを化学システムとしてとらえ、それを理解するための物理化学の基礎について説明し、演習問題を行う)

[評価方法・基準]

[履修要件] メディアプランニング演習 I に同じ。

TJ026002

授業科目名：メディアプランニング演習 II (MPIIB 電気基礎実験)
 科目英訳名：Seminar for Media Planning II
 担当教官：山本 一雄
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ026002
 開講時限等：2 年後期水曜 7 限
 講義室：工 16 号棟 209 実験室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
T.J1:都市環境 環	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
T.J2:都市環境 メ ディア メディア	専門必修 (F10)						

[目的・目標] メディアプランニングコースの学習において必要となる、各学問分野の基礎的なトレーニングを行う。10 人程度の小人数クラスに分かれて、演習・実験などを行う。

[授業計画・授業内容] 演習は下記の 4 班に分かれ学習する。第 1 回目にガイダンスと班分けを行うので掲示などに充分注意すること。1) 情報通信演習(情報通信ネットワークについて概要を講義し演習を行う) 2) 電磁気計測(電気、電子、電磁波に関する基礎実験およびコンピュータ実習を通して、これらの物理現象の把握、データ解析手法などを学ぶ) 3) 熱流体演習(主として熱力学を基礎とする伝熱工学、熱流体力学に対する学習と演習を行う。熱伝導、熱伝達と対流現象、輻射伝熱など基礎的概念を身につける) 4) 化学システムとしての循環系(都市における物質の変化とエネルギーの流れを化学システムとしてとらえ、それを理解するための物理化学の基礎について説明し、演習問題を行う)

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] メディアプランニング演習 I に同じ。

TJ026003

授業科目名：メディアプランニング演習 II (MPIIC 熱流体演習)
 科目英訳名：Seminar for Media Planning II
 担当教官：前野 一夫
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：2 年後期水曜 7 限
 授業コード：TJ026003
 講義室：工 17 号棟 特別教室 (H17 から使用不可)

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
T.J1:都市環境 環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
T.J2:都市環境 メ ディア メディア	専門必修 (F10)						

[目的・目標] メディアプランニングコースの学習において必要となる、各学問分野の基礎的なトレーニングを行う。10 人程度の小人数クラスに分かれて、演習・実験などを行う。

[授業計画・授業内容] 演習は下記の 4 班に分かれ学習する。第 1 回目にガイダンスと班分けを行うので掲示などに充分注意すること。1) 情報通信演習 (情報通信ネットワークについて概要を講義し演習を行う) 2) 電磁気計測 (電気、電子、電磁波に関する基礎実験およびコンピュータ実習を通して、これらの物理現象の把握、データ解析手法などを学ぶ) 3) 熱流体演習 (主として熱力学を基礎とする伝熱工学、熱流体力学に対する学習と演習を行う。熱伝導、熱伝達と対流現象、輻射伝熱など基礎的概念を身につける) 4) 化学システムとしての循環系 (都市における物質の変化とエネルギーの流れを化学システムとしてとらえ、それを理解するための物理化学の基礎について説明し、演習問題を行う)

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] メディアプランニング演習 I に同じ。

TJ026004

授業科目名：メディアプランニング演習 II (MPIID 化学システム)
 科目英訳名：Seminar for Media Planning II
 担当教官：(塩島 壯夫)
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：2 年後期水曜 7 限
 授業コード：TJ026004
 講義室：工 5 号棟 104 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
T.J1:都市環境 環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
T.J2:都市環境 メ ディア メディア	専門必修 (F10)						

[目的・目標] (記述なし)

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[評価方法・基準] (記述なし)

授業科目名： コンピュータネットワーク

科目英訳名： Computer Networks

担当教官： 池田 宏明

単位数： 2.0 単位

開講時限等： 2年後期火曜 7限

授業コード： TJ074001

講義室： 工 9号棟 107 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004年	2003年	2002年	2001年	2000年	1999年	1998年
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 本講では、電子計算機とデジタル回線が網目のように接続されて構成されている大規模通信ネットワークである「インターネット」について、ネットワークを機能させている TCP/IP の基礎と TCP/IP の応用について学ぶ。具体的には、ネットワーク及び TCP/IP の基礎知識、データリンク、インターネットプロトコル (IP)、TCP と UDP、経路制御プロトコル、アプリケーションプロトコル、物理層・伝送メディアなどについて学習する。

[目的・目標] 都市環境システムにおいて、情報ネットワークで提供される情報がますます重要になっている。その情報システムはインターネットプロトコル (IP) に基づくコンピュータ間通信が基礎となるが、本講では、大規模通信ネットワークである「インターネット」について、その仕組み、機能、問題点などを、プロトコル (通信規約) の観点から修得できるようにすると共に、必要に応じて実習も取り入れ学習効果が上がるようにしている。

[授業計画・授業内容] 1) ネットワーク及び TCP/IP の基礎知識、 2) データリンク、インターネットプロトコル (IP)、 3) TCP と UDP、 4) 経路制御プロトコル、 5) アプリケーションプロトコル、 6) 物理層・伝送メディアなどについて講義・実習する。

[キーワード] TCP/IP, protocol, Internet, computer networks

[教科書・参考書] 教科書；竹下、村山、荒井、苅田：マスタリング TCP/IP、入門編 (第 3 版)、オーム社

[評価方法・基準] (記述なし)

授業科目名： 信頼性工学

科目英訳名： Reliability Engineering

担当教官： 山崎 文雄

単位数： 2.0 単位

開講時限等： 2年後期月曜 7限

授業コード： TJ076001

講義室： 工 17号棟 111 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004年	2003年	2002年	2001年	2000年	1999年	1998年
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 複雑なシステムが正常に機能する性質 (信頼性) を定量的に評価するための基礎的理論とその応用について講義を行う。機械・構造システム分野と電気電子システム分野の信頼性工学を統合した内容であり、基礎的な数学の知識があれば内容を理解できる自己完結型の講義である。基礎的な内容が中心であるので、教科書に準拠して講義を進める。

[目的・目標] 確率・統計理論を基礎として、さまざまなシステムを設計、製造し、指定された期間にわたって正常に、安全に、経済的に運用するための理論・手法の修得を目指す。

[授業計画・授業内容] (1) 信頼性と信頼性工学, (2) 信頼性の基礎数理, (3) 信頼性データの統計的解析, (4) システムの信頼性, (5) 故障モードの同定, (6) 機械・構造物の信頼性工学, (7) モンテカルロ・シミュレーション, (8) 保全性とアベイラビリティ, (9) 信頼性管理

[キーワード] 故障, 安全性, 信頼性, 保全性, システム, 確率分布, モンテカルロ法, 破損モード

[教科書・参考書] 「システム信頼性工学」, 室津義定ほか, 機械システム入門シリーズ7, 共立出版, 3000円, 1996年(購入することが望ましい.)

[評価方法・基準] 試験(60%), 課題(20%), 出席(20%)で評価

[備考] 講義ノートは講義前日までに <http://ares.tu.chiba-u.jp/note.htm> に掲載するので, 印刷して講義に出席のこと.

TJ077001

授業科目名: 都市環境プロデュース II

科目英訳名: Urban Environment Produce II

担当教官: 柘植 喜治

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 2年後期木曜 6限

授業コード: TJ077001

講義室: 工 17号棟 112教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004年	2003年	2002年	2001年	2000年	1999年	1998年
T.J:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
T.J1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)						
T.J2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[授業の方法]

[目的・目標] 複合商業施設や市街地再開発における人びとの生活・活動を重視した都市環境の、ソフト面でのシステム構築手法を修得します。また、それを支える施設用途プログラム、業態開発、VMDなどクリエイティブワークの実際、さらに空間プロデュース、シーニックデザイン、や演劇、映画、テーマパーク、ミュージアム分野など領域を越えた横断的な領域の考察による情緒、感性や物語性を重視した都市環境のデザイン手法を研究します。

[授業計画・授業内容] 都市情報と Space Communication、Between the Objects、Place Making と場の共有、Experiential Design、モノからコトのデザインに、市街地再開発、地域開発、商業施設開発の動向、Urban Cohesion と Critical Mass、コンテンツデザインと業態開発、Theming と Districting、産業構造の変化とエンターテイメントデザイン、環境計画とビジュアルマーチャングデザイン、Mixed use と Synergy、異分野(演劇、映画など)から学ぶこと、景観デザインとレイヤー、プロデューサーとコラボレーション体制、Sustainable Design と社会環境の変化

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] A コース学生も履修可能。原則として環境プランニングコースに属する学生の履修科目ですが、履修学生の人数に余裕がある場合には、メディアプランニングコースの学生も履修することができます。

TJ078001

授業科目名: 都市環境共生

科目英訳名: Eco-compatible Engineering

担当教官: 立本 英機

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 2年後期金曜 6限

授業コード: TJ078001

講義室: 工 17号棟 213教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004年	2003年	2002年	2001年	2000年	1999年	1998年
T.J:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
T.J1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)						
T.J2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[授業の方法] 講義

[目的・目標] 多数の人間が集中して生活する場である都市は、同時に人々が経済活動、社会活動あるいは生産・消費活動を営む場でもある。こうした都市と言う場において人々が健康で快適に生きていくための必要条件や問題解決のための手段・方法を、自然環境との調和・共生を主眼に置いて、環境科学や環境工学技術の立場から考える。

[授業計画・授業内容] 都市環境共生の基本概念からスタートし、これと関わりの深い都市環境の諸問題、すなわち都市環境と大気汚染、都市環境と水質、都市環境と産業廃棄物や、再利用のための産業廃棄物処理技術などについて解説する。つぎに都市を取り巻く大気、水質、および有害物質などの計測評価技術を解説し、環境影響評価の方法に対する理解を深める。また折に触れて先進国における都市環境対策や資源保護の問題についても取上げる。

[評価方法・基準] (記述なし)

TJ028001

授業科目名： 建築計画	
科目英訳名： Architectural Planning	
担当教官： 小林 秀樹	
単位数： 2.0 単位	開講時限等: 3 年前期月曜 7 限
授業コード： TJ028001	講義室： 工 9 号棟 106 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門必 修 (F10)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[授業の方法] 講義・演習

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 建築・都市環境の在り方を人間の行動・生活の視点から捉え、建築の計画および企画立案の方法へと体系化するための知識を講義する。

[目的・目標] 建築及び都市環境に関わる様々な専門家に求められる基本的な素養と問題意識を身につけることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 講義のテーマとしては、建築計画及び事業企画の最新事例を読み解くとともに、実態調査の理論、環境・文化・都市と調和した建築の条件とは何か、行動・生活からみて望ましいデザインとは何か、マーケティングの方法を取り込んだ新しいデザインの理論と方法とは何か、などを多角的に取り上げる。

1. 建築計画（企画）とは何か
2. 最新の建築計画の実践をみる
3. 調査理論と計画方法論
4. マーケティング理論
5. 環境問題と建築計画 I（環境共生建築）
6. 環境問題と建築計画 II（S I 建築）
7. 都市問題と建築計画 I（都市と建築の再生）
8. 都市問題と建築計画 II（環境アセスメントと建築事業）
9. 住宅問題と建築計画 I（テリトリーとデザイン）
10. 住宅問題と建築計画 II（住宅水準と密度論）
11. 建築計画における計画概念（参加、多様性、変化等）
12. 建築における不動産事業の仕組み
13. 不動産事業の新しい展開
14. 建築士基礎知識（寸法計画、施設計画・学校・病院・オフィス等）

[キーワード] 建築計画、事業企画、調査理論、マーケティング、住要求、空間構成

[教科書・参考書] 適宜、紹介します。

[評価方法・基準] 授業時に提示するレポートにより評価する

[関連科目] 都市居住計画

[履修要件] 特になし

TJ029101

授業科目名：環境構成材料
科目英訳名：Materials for Urban Environment
担当教官：近藤 吾郎
単位数：2.0 単位
授業コード：TJ029101
開講時限等：3 年前期金曜 6 限
講義室：工 17 号棟 211 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ:都市環境 B	専門選 択必修 科目 (F20)	専門選 択必修 科目 (F36)					
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 科目 (F20)	専門選 択必修 科目 (F20)	専門選 択必修 科目 (F20)	専門選 択必修 科目 (F10)	専門選 択必修 科目 (F10)	専門選 択必修 科目 (F10)	専門選 択必修 科目 (F10)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 50 名

[授業概要] 建築や土木構造物など社会基盤施設を構成する材料には、建設・供用・維持・廃棄といった各段階においてさまざまな性能が必要とされる。この講義では、主要な建設材料の特性と要求される性質とについて講述する。さらに、構造法や施工法と関連させながら、この材料性能を実現するための性能設計方法や資源・エネルギーの有効利用した材料生産方法についても学ぶ。

[目的・目標] コンクリート・鉄鋼の材料特性とこれらの材料を使用した構造物の構造性能の関係を理解する。

[授業計画・授業内容] 最近の建築材料は極めて多岐にわたるが、その中で建築構造物の主要な構造材料であるコンクリート、鉄鋼、木材を取り上げ、主として材料の使用者の立場から材料の選択や建築施工の際に必要な知識を習得する。

[教科書・参考書] 教科書・参考書は、講義の中で紹介する。

[評価方法・基準] 期末試験による。

[関連科目] 材料実験演習

[履修要件] 材料実験演習と同時に履修することが望ましい。

授業科目名： 都市建築デザイン
 科目英訳名： Urban Architectural Design
 担当教官： 宇野 求
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ068001

開講時限等： 3 年前期木曜 6 限
 講義室： 工 15 号棟 110 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択必修 (F20)						
TF4:デザイン A 建築					専門選 択必修 (F20)	専門選 択 (F30)	
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)					
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法]

[目的・目標] 現代建築および現代都市のデザインについて、古今東西の事例を具体的にとりあげながら紹介し、そのクリティカルなテーマおよび手法の基本的な考え方についてレクチャーを行っていきます。

[授業計画・授業内容]

1. イントロダクション / 建築と都市
2. 建築と都市の型 / 形式, 様式, 装飾
3. 素材 / 自然要素 (光・風・水), 装置 (家具と機械)
4. 次元 / 空間の役割 (機能)
5. 変わる部分と変わらない部分 / プライベートとパブリック
6. 情報の空間
7. 現代生活の型と建築
8. 規模の計画
9. 新しい施設の型
10. 地域空間における建築の計画とデザイン
11. 建築群のデザイン
12. 情報社会における空間機能
13. ガラス建築 / 自動車と建築
14. 自然と人工物 / 物質と光
15. まとめ

[教科書・参考書] テキスト: 「あたらしい建築計画」宇野求, 彰国社参考書 : 適宜, 紹介していきます。

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] なし

[備考] 講義計画の内容を具体的な建築と都市のスライドで解説していきます。順番や内容など, 変更することがあります。

授業科目名： コミュニティエンジニアリング I
 科目英訳名： Community Engineering I
 担当教官： 都市環未定
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ033001

開講時限等： 3 年前期集中
 講義室：

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[授業の方法]

[目的・目標] (記述なし)

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 平成 16 年度開講せず

授業科目名： 材料実験演習
 科目英訳名： Experiment and Exercise of Construction Materials
 担当教官： (岡本 晴彦), (太田 義弘)
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ035101, TJ035102

開講時限等： 3 年前期火曜 6,7 限
 講義室： 工 17 号棟 112 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[授業の方法] 演習・実験

[受入人数] 50 名

[授業概要] コンクリート・鉄鋼の材料特性とこれらの材料を使用した構造物の構造性能の関係を理解する。

[目的・目標] 建築や土木構造物など社会基盤施設を構成する材料には、建設・供用・維持・廃棄といった各段階においてさまざまな性能が必要とされる。ここでは、主要な構造材料の力学的な特性（強度、弾性、塑性、粘性など）を、実験を通して体験的に学ぶ。

[授業計画・授業内容] 鉄鋼やコンクリートなどの建築構造材料の性質を明らかにするために行われる J I S などに標準化されている試験方法を学ぶとともに、これらの材料から構成される構造物の挙動と材料の性質との関係を理解するために構造実験を行う。

[教科書・参考書] 構造材料実験法 谷川ほか著 森北出版

[評価方法・基準] 実験・演習レポートに期末試験を加えて総合的に評価する。

[関連科目] 環境構成材料

[履修要件] 構造力学や材料力学に関する基礎的な知識を有していること。

授業科目名： 都市環境エネルギー論 I
 科目英訳名： Urban Environment Energetics I
 担当教官： 前野 一夫
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ038001

開講時限等： 3 年前期水曜 7 限
 講義室： 工 17 号棟 112 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度							学科 コース	入学年度
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
T.J1:都市環境環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	TA:機械 B	1997 年 専門選 択科目 (F30)
T.J2:都市環境メ ディアメディア	専門選 択必修 (F20)								

[目的・目標] エネルギーに関する工学的な基礎事項と、その都市環境における諸問題について理解を深めることが、この講義の目的である。まず、エネルギーと環境の問題についての展望を示し、流体と熱の流れに関する基礎と応用について考察する。

[授業計画・授業内容] 1. エネルギーとは？ 2. 流れと流体、静止した流体の諸特性 3. 流体の流れを支配する基礎法則 4. 管の中の流れと管路システム 5. 川の流れ、地下水の流れ、水波 6. 地球大気の動き、気象 7. 流れから受ける力、抗力と揚力、推進力 8. 熱の流れを支配する基礎法則 9. 固体内の熱の流れ - 熱伝導 10. 固体壁と流体間の熱の流れ - 熱伝達 11. 流体の移動に伴う熱の流れ - 自然対流 12. 流体の移動に伴う熱の流れ - 強制対流 13. 電磁波による伝熱 - 熱放射 *途中試験を行う

[評価方法・基準] (記述なし)

授業科目名： 通信環境システム I
 科目英訳名： Communication Environment Systems I
 担当教官： 伊藤 公一
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ039001

開講時限等： 3 年前期水曜 6 限
 講義室： 工 17 号棟 111 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
T.J1:都市環境環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
T.J2:都市環境メ ディアメディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法] 講義

[目的・目標] 移動通信や情報ネットワーク等の急速な発達により、都市を取り巻く通信環境・電磁環境はダイナミックに変化し、複雑化している。本講義では、主に無線、すなわち電波を用いた通信環境システムの基礎を講義する。具体的には、都市における電波環境、無線通信の基礎である電波の発生、伝送および受信、そして我々の身のまわりにある無線通信システムの特色、問題点、および将来について講義する。

[授業計画・授業内容] 以下の内容で行う予定ですが、都合により授業内容の一部入れ替えあるいは変更もあり得ます。ただし、その場合は事前に予告します。

1. イントロダクション (講義の主旨、進め方、成績評価方法など)
2. 電波応用の種類 (情報伝送、探査・観測、エネルギー利用)
3. 電波応用の具体例と問題点 (携帯電話 / PHS, BS, カーナビ, 無線 LAN, 電子レンジなど)
4. 電波の発生・放射 (電波の性質、発生・放射)
5. 質問・ディスカッション・演習
6. 電波の伝搬・伝送 / 受信 (アンテナの種類・特性, 電波の伝搬, 受信)
7. 電波の伝搬・伝送 / 受信 (アンテナの種類・特性, 電波の伝搬, 受信)
8. 電波の伝搬・伝送 / 受信 (アンテナの種類・特性, 電波の伝搬, 受信)
9. 情報伝送の基本技術 (変調, 放送など)
10. 質問・ディスカッション・演習

11. 移動通信 (特徴, 技術など)
12. 移動通信 (代表的システム)
13. 電磁環境問題
14. 将来動向 / まとめ / 質問
15. 試験

[評価方法・基準] 講義への出欠状況、レポートの成績および試験結果を総合して評価する。

[履修要件] 物理学 CI 電磁気学入門 1、物理学 CII 電磁気学入門 2 を履修していることが望ましい。

TJ040001

授業科目名：環境プランニング演習 II (計画系クラス)
 科目英訳名：Design and Planning of Urban Environment II
 担当教官：(中谷 正人), 宇野 求, 北原 理雄
 単位数：2.0 単位 開講時限等：3 年前期土曜 3,4 限
 授業コード：TJ040001, TJ040002 講義室：未定 (工学部)

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)			
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)					
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 演習

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[目的・目標] 環境プランニング演習 I にひきつづき、一定の規模のある建築・都市のデザインについて構想、企画し、計画を定め総合的にまとめあげるトレーニングを行う。計画に先立つ調査や分析、プレゼンテーションの方法、共同でプロジェクトを進めることもあわせて学習する。

[授業計画・授業内容] 都市・建築の課題を解説し提案する能力を養うため、具体的なフィールドを設定して計画をまとめていく。受講生の計画案に対して適宜指導を行う。環境プランニング演習 I を踏まえて、よりステップアップした課題に取り組む。

[教科書・参考書] 適宜紹介。

[評価方法・基準] 出席と課題提出物により評価。

[履修要件] 環境プランニング演習 I を履修していること。

授業科目名：環境プランニング演習 II (エンジニアリングクラス)
 科目英訳名：Design and Planning of Urban Environment II
 担当教官：山崎 文雄
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：3 年前期土曜 3,4 限
 授業コード：TJ040003, TJ040004
 講義室：工 17 号棟 111 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)			
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)					
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 講義・演習

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 微分・積分や運動方程式を解くなどの数値解析, および確率計算や統計解析などに関して, パソコンを用いて実際に自分で行うための方法を講義する。課題は自分で Excel 等を使って行う。

[目的・目標] 構造解析やデータ解析において必要となる数値計算法について, 実践的に修得する

[授業計画・授業内容] (1) 微分・積分と数値計算, (2) 振動問題と時間積分, (3) 1 質点系の地震応答計算, (4) 応答スペクトルの計算, (5) フーリエ解析, (6) 確率分布の計算法, (7) 確率分布の検定, (8) 確率紙の作り方・使い方, (9) 乱数発生とモンテカルロ法, (10) 基礎統計解析

[キーワード] 微分・積分, 数値計算, Excel, 振動学, 確率論, パソコン

[教科書・参考書] 「Excel で学ぶ微分・積分」, 涌井良幸他, ナツメ社, 2,500 円, CD-ROM 付, 2003 年

[評価方法・基準] 出席 (40%), 課題 (30%), 試験 (30%) により評価

[関連科目] 都市防災科学, 信頼性工学

[履修要件] 環境プランニング演習 I を履修していることが望ましい。

授業科目名：メディアプランニング演習 III
 科目英訳名：Seminar for Media Planning III
 担当教官：大坪 泰文, (福田 傑), (石出 忠輝)
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：3 年前期土曜 3 限
 授業コード：TJ041001
 講義室：工 17 号棟 214 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[授業の方法]

[目的・目標] 都市環境システムの「流れ」の基本となる専門科目に関して, 10 人程度の少人数に別れてフィールドワークや実験を行う。各実験を通して, テーマの把握と実験の目的, 実験装置や方法, 実験データや結果の整理方法, 考察等のまとめ方, 報告書(実験レポート)の書き方などを学習し, 現代都市環境の諸問題に関連した専門的知識を深める。

[授業計画・授業内容] 各班は以下の 6 テーマより 4 テーマをメニューにて選択し受講する。1) 水質計測実験, 2) 電磁気基礎実験, 3) 風況データ収集と風力開発システム設計, 4) 騒音計測実験, 5) 流体計測, 6) 熱流体計測実験。なお, 各テーマによって, 時間がかかる場合は 2-3 コマの集中講義形式の時間配分となる可能性がある。授業開始前のガイダンスに必ず出席すること。

[評価方法・基準] 出席とレポート

TJ042001

授業科目名： 都市環境システム特別セミナー I
 科目英訳名： Special Sminar in Urban Environment Systems I
 担当教官： 都市環未定
 単位数： 2.0 単位
 開講時限等： 3 年前期集中
 授業コード： TJ042001
 講義室：

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ1:都市環境環 境	専門選 択必修 (F20)						
TJ2:都市環境メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法]

[目的・目標] 概要： 都市環境システムの学習を進める上で、重要と思われるトピックスについて実務として活躍している学外講師による入門・解説・応用の講座である。

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 平成 16 年度開講せず

授業科目名： 応用数学 I

科目英訳名： Advanced Engineering Mathematics I

担当教官： (笹本 明)

単位数： 2.0 単位

開講時限等： 3 年前期集中

授業コード： TZ021001

講義室： 未定 (工学部)

科目区分表

学科 コース	入学年度							学科 コース	入学年度			
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1997 年	1996 年	1995 年	1994 年
TE:都市環境	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択必修 (E20)	専門基礎選択必修 (E20)	T2:建築 A	専門基礎選択 (E30)			
TF1:デザイン A デザイン		専門選択科目 (F36)	専門選択科目 (F36)	専門選択科目 (F30)				T4:情報 A	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門選択科目 (F36)	専門選択科目 (F36)									
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門選択科目 (F36)										
TF4:デザイン A 建築	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)					
TF5:デザイン A 意匠	専門選択科目 (F36)											
TG:電子機械 A	専門選択他学 科科目 (F37)	専門選択他学 科科目 (F37)	専門選択他学 科科目 (F37)	専門選択他学 科科目 (F37)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)					
TG4:電子機械 A 機械系 機械系	専門選択他学 科科目 (F37)											
TG5:電子機械 A 電気電子系 電気 電子系	専門選択他学 科科目 (F37)											
TH:情報画像 A	専門選択 (F30)	専門選択科目 (F36)	専門選択科目 (F36)	専門選択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)					
TH1:情報画像 A 情報工学		専門選択科目 (F36)	専門選択科目 (F36)	専門選択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)					
TH3:情報画像 A 画像材料工学		専門選択科目 (F36)	専門選択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)					
TH4:情報画像 A 画像システム工学		専門選択科目 (F36)	専門選択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)					
TI:物質 A		その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)					
TI1:物質 A 化学 物質化学		その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)					
TI2:物質 A 機能 物質機能		その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)					
TI3:物質 A 物性 物質物性		その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)					
TJ1:都市環境 環 境	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)					
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)	専門基礎選択 (E30)					
TK2:先進フロン ティア	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)										

[授業の方法]

[目的・目標] 数値計算法の方法のうち、差分法、有限要素法、境界要素法について講義する。

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 開講教室、開講日時等の詳細については、教務係窓口付近の掲示板を参照して下さい。開講日：(平成 15 年度については 7 月 30 日 (水) ~ 8 月 2 日 (土) で行いました。)

授業科目名： 都市計画Ⅰ
 科目英訳名： Town and Regional Planning I
 担当教官： (原 昭夫)
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ079001

開講時限等： 2,3 年後期月曜 7 限
 講義室： 工 15 号棟 110 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004年	2003年	2002年	2001年	2000年	1999年	1998年
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 「自治体」を軸に、まちづくり、都市計画の扱う諸問題を事例に則して具体的、総合的に考え、実感をもって理解できるようにする。都市論：オリエンテーション、都市とは、「自治体」の話し

[目的・目標] 我々をとりまく都市や環境を少しでも住みよいものとしていくために働く、地域づくりのプロとなっていくために、都市の見方、問題の発見、課題解決のための提案ができる力、そして住み手の立場、市民の視点からのまちづくりを実践してゆく力をつちかう。

[授業計画・授業内容] キーワードは、都市論、人口論、土地利用論、都市施設論、都市政策、都市計画、まちづくり全般、防災まちづくり、都市計画略史、地域論、市民参加、職能論など。原則として講義形式。スライドを用いたレクチャー。もし時間の調節ができれば野外ウォークなども組み入れる。レポートを数回行う。

1. 都市論：オリエンテーション、都市とは、「自治体」の話し
2. 人口論：都市と人口、人口規模と権限、人口密度
3. 世田谷のまちづくり、郊外住宅地の成り立ち（スライド使用）
4. 土地論 1：土地とは、国土利用計画、土地利用計画
5. 土地論 2：都市的土地利用、用途地域、形態規制
6. 地域論 2：沖縄（名護）のまちづくり、風土と建築（スライド使用）
7. 都市施設論 1：都市施設とは、道路の段階構成、交通
8. 都市施設論 2：圏域と施設、近隣住区論、コミュニティ
9. 都市防災論：阪神淡路、台湾、トルコ大地震から学ぶ（スライド使用）
10. 都市計画史 1：近代日本都市計画略史、各種法律の成り立ち
11. 都市計画史 2：国土開発史、「全総」の変遷、地方の扱い
12. 地域論 3：アジアのまちづくり、植民都市、スラムなど（スライド使用）
13. まちづくり主体論：都市計画決定プロセス、市民参加、職能
14. これからのまちづくり：まとめ、まちづくりの課題と展望
15. 予備

[キーワード] 都市論, 人口論, 土地利用論, 都市施設論, 都市政策, 都市計画, まちづくり全般, 防災まちづくり, 都市計画略史, 地域論, 市民参加, 職能論

[教科書・参考書] 原昭夫著『自治体まちづくり』（学芸出版社）（千葉大生協で教科書扱い）

[評価方法・基準]（記述なし）

[履修要件] 都市や地域やまちの現状に関心があり、その課題の改善に意欲を持っていること。関連する講義（計画、歴史、法規、防災など）をとっておくとよい。

[備考] 平成 16 年 10 月 18 日休講。補講予定は追って連絡します。

授業科目名： システム材料力学/演習
 科目英訳名： Strength of materials and structures
 担当教官： 小林 謙一
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ081001

開講時限等： 3 年前期木曜 7 限
 講義室： 工 17 号棟 213 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法] 講義

[授業概要] 人工物を構成する各種部材内に発生する内力や変形を未然に予知する手法を学ぶ。また、人工物を安全かつ合理的に設計/使用するため、構成部材の各種性質を理解する。

[目的・目標] 各種機器や建築物など、人工物がある環境下で所定の期間、人工物本来の機能を保持するためには、一定の信頼性の元で破損/破壊を未然に防がなければならない。特に破壊/破損が公衆に多大な影響を及ぼす人工物の構造健全性保持は特に重要である。本講義では都市のライフラインを構成する人工物の安全性/信頼性を確保するため、強度設計法を中心にその考え方を講義すると共に、身近な強度問題の解決能力を涵養する。

[授業計画・授業内容] 構造物の安全性と信頼性、材料の性質、強度パラメータ (応力とひずみ)、荷重の負荷方式、梁の強度と変形などについて講義する。これらは自動車やプラントの設計、建築物の設計ばかりか、人体の最適構造などを理解するのに役立つ。(1) 構造・材料の力学と分類、(2) 基本用語、(3) 材料の機械的性質と安全率、(4) 引張および圧縮問題、(5) ねじり問題、(6) 座屈問題

[キーワード] 材料、強度、変形、引張、圧縮、ねじり、座屈、信頼性

[教科書・参考書] 「構造・材料の力学」尾田十八・坂本二郎 共著 (培風館)

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 物理学(力学)を履修していることが望ましい。

[備考] 担当者が長期海外出張のため、開講は5月中旬以降の予定。

授業科目名： 地域環境計画
 科目英訳名： regional planning
 担当教官： 三国 政勝
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ083001

開講時限等： 3 年前期金曜 7 限
 講義室： 工 17 号棟 113 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 人間-環境の基本的とらえ方、農村集落の特性や整備方法、高齢者・障害者の生活環境の改善、千葉県を中心とした環境問題への取り組みなど。

[目的・目標] 近代科学の方法は、細かく分割された対象のそれぞれの枠の中での精緻な分析が中心になっているが、まちづくり、むらづくりなどの取り組みにおいては、環境を総合的に捉え、新しいものを創造するための方法が必要になる。その第一歩は、狭い専門領域に止まることなく、人間や社会に対する幅広い問題意識を持つことである。既に確立している学問知識の獲得よりも、問題の発見とその解決に向かって創意工夫する力を伸ばしたい。

[授業計画・授業内容]

1. 環境とは何か 認識と存在の哲学的考察
2. 住居と生活の歴史の変遷
3. 農村集落の空間特性
4. 地域環境における共同性
5. 土地利用計画に関する制度
6. 集落地域整備の方法
7. 農業・食料・農村をめぐる諸問題
8. 漁村集落の空間構造
9. 高齢者・障害者の住宅改善
10. バリアフリーに関する制度
11. バリアフリーのまちづくり
12. 防災まちづくりー阪神大震災の教訓ー
13. まちづくり・むらづくりの事例
14. 千葉県環境問題
15. まとめ

[キーワード] 環境哲学、農村集落、環境計画、バリアフリー、住宅改善

[評価方法・基準] 1. 基本的な知識が身に付いているか。 2. 幅広い視野で問題をとらえているか。 3. 表面的な現象レベルに止まらず、どれだけ深く考えているか。

[履修要件] 特になし

[備考] 上記の予定は、内容、順序を一部変更する可能性がある。

TJ043001

授業科目名： 都市環境システム実習
 科目英訳名： Practice in Urban Environment Systems
 担当教官： 宇野 求, 腰越 秀之
 単位数： 2.0 単位
 開講時限等： 3 年通期集中
 授業コード： TJ043001
 講義室：

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)					
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[目的・目標] 都市環境の形成にかかわる実社会の現場において一定期間（2 週間以上）実習を経験し、その知見から得た方法について報告書を作成し発表を行う。

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[評価方法・基準] (記述なし)

授業科目名：プロジェクト研究 BII
 科目英訳名：Project Study BII
 担当教官：宇野 求, 腰越 秀之
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ044101

開講時限等：3 年通期集中
 講義室：

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
T.J1:都市環境 環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
T.J2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[目的・目標] 「プロジェクト研究 BI」に続いて、社会人学生が、社会生活の中で遭遇した各種の課題について、個人またはグループによる研究や討論を行う。

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 履修を希望する場合は必ず担任に申し出ること。履修を希望する場合は必ず担任に申し出ること。過去に行った内容・テーマは関連 URL を参照のこと。単位取得には、1 年間の研究内容の発表 (年度末) が義務付けられる。

授業科目名：構造力学 II
 科目英訳名：Structural Mechanics II
 担当教官：近藤 吾郎
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ045201

開講時限等：3 年後期土曜 1 限
 講義室：工 9 号棟 206 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
T.J:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
T.J1:都市環境 環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
T.J2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 構造力学、材料力学で学んだ力学に関する基礎知識を発展させ、より具体的な構造的知識の応用力を養う。なお、環境プランニング演習 3 エンジニアリングクラスと併行して受講することが望ましい。

[目的・目標] トラス構造やラーメン構造の部材の変形状態や部材内部のより詳細な力の流れを把握するとともに、構造物としての構造特性を理解する。

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[評価方法・基準] (記述なし)

授業科目名： 都市建築法規・行政
 科目英訳名： Urban Architectural Regulation and Administration
 担当教官： (松柴 慎吾)
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ047101

開講時限等： 3 年後期火曜 7 限
 講義室： 工 15 号棟 110 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)			
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必 修(F10)	専門必 修(F10)	専門必 修(F10)	専門必 修(F10)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[授業の方法]

[目的・目標] わが国における建築活動（計画・施工等）は、すべて法律を規範として営まれており、建築基準法は、構造・防火・避難・衛生等に関する技術基準（単体規定）、集団としての秩序を維持するための用途・密度・形態等に関する基準（集団規定）を規定し、これらの実効性を確保するための制度・行政機関・手続き等についても規定している。この講義は主に建築基準法を学びながら、行政実例等を織り混ぜ、建築技師として最低限の法律知識を知り、社会の変化に対応できる人材を養成しようとするものである。

[授業計画・授業内容]

1. 建築行為と法律。法令の構成。建築行政とは何か
2. 建築基準法の目的。建築法規を学ぶための基礎事項
3. 建築に関する手続き他
4. 単体規定 1 一般構造
5. 単体規定 2 構造関係規定
6. 単体規定 3 構造耐力・新耐震・(性能規定を含む)
7. 単体規定 4 防火と避難その 1・(消防法を含む)
8. 単体規定 5 防火と避難その 2・(性能規定を含む)
9. 単体規定 6 防火と避難その 3
10. 集団規定 1 都市計画、開発許可。用途地域と建築制限
11. 集団規定 2 形態制限その 1 道路と敷地。建ぺい率・容積率
12. 集団規定 3 形態制限その 2 高さ制限・各種斜線制限他
13. 集団規定 4 日影規制、防火等の規制。課題提示
14. 集団規定 5 良好な環境の市街地をつくりだす各種の手法他。
15. レポート等提出

[評価方法・基準] (記述なし)

授業科目名：コミュニティエンジニアリング II
 科目英訳名：Community Engineering II
 担当教官：(小宮 一仁)
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ050001

開講時限等：3 年後期土曜 4 限
 講義室：工 2 号棟 103 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[目的・目標] (記述なし)

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[評価方法・基準] (記述なし)

授業科目名：都市環境エネルギー論 II
 科目英訳名：Urban Environment Energetics II
 担当教官：佐藤 建吉
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ051001

開講時限等：3 年後期水曜 6 限
 講義室：工 17 号棟 214 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度							学科 コース	入学年度	
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1997 年	1996 年
TE:都市環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	TA:機械 B	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)			
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)									

[授業の方法] 講義・発表

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 今日のエネルギー利用の現状と課題、技術と社会的背景について、今後の展開について述べ、意見交換を行なう。エネルギーとは？ 新エネルギーとは？ 新エネルギー利用の未来は？ エネルギーシステムの現状は？ E S C O 事業の未来は？

[目的・目標] 「エネルギー・環境・メディア」, 「エネルギーの現状」, 「エネルギー源」, 「エネルギーシステム」, 「新エネルギー」, 「エネルギービジネス」等の側面から解説し、市民としてのエネルギー問題の理解と対応をすすめる。

[授業計画・授業内容] 最近のエネルギー事情について、いまを生きる人間、社会の一員、市民としてのエネルギーとの関わりについて、講義と事例研究を通して考える。

1. シナジーとしてのエネルギーと環境、そしてメディアとの関わり
2. エネルギーシステムとエネルギー資源
3. エネルギー変換技術（カルノーサイクルとスターリングエンジン）
4. 蒸気利用発電技術（火力および原子力発電）の現状と課題
5. 再生可能エネルギー（太陽光発電）の現状と課題
6. 再生可能エネルギー（風力発電）の現状と課題
7. 発電風車の理論と性能
8. 風力発電システム設計（WindFarmer と Bladed の紹介）
9. 風力発電の可能性

10. 水素社会への燃料電池
11. 省エネルギー技術と E S C O 事業
12. 日本と諸外国のエネルギー政策
13. 課題研究...エネルギーの利用の分析
14. 課題発表
15. 課題発表のまとめ

[キーワード] エネルギー、新エネルギー、風力発電、省エネルギー、エネルギー政策

[教科書・参考書] 開講時に呈示

[評価方法・基準] 小論文、課題発表

TJ052001

授業科目名：通信環境システム II	
科目英訳名：Communication Environment Systems II	
担当教官：吉村 博幸	
単位数：2.0 単位	開講時限等：3 年後期金曜 6 限
授業コード：TJ052001	講義室：工 17 号棟 113 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境 環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境 メディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法] 講義

[授業概要] 有線通信の担い手である電磁波の基礎、および有線通信の基礎である分布定数線路について講義する。

[目的・目標] 都市に住む我々にとって最適な通信環境を構築するために考慮しなければならないハード的要素を、特に有線通信の観点から多角的に考える素地を身につけてもらうことが、この講義の目的である。

[授業計画・授業内容]

1. 導入
2. 電磁波の分類と通信における用途
3. 電界、電圧
4. 電流、磁界、電磁誘導
5. 物質の電気磁気パラメータ
6. マクルウェルの方程式
7. 波動方程式とその解
8. 物質と伝搬定数
9. 表皮効果
10. 分布定数線路の例
11. 分布定数線路の等価回路
12. 分布定数線路の性質
13. 線路の入力インピーダンス
14. 平面線路、光導波路
15. 試験

[キーワード] 有線通信、分布定数線路、電磁波

[評価方法・基準] 試験およびレポートの成績、講義への出欠状況で評価する。

[履修要件] 物理学 CI 電磁気学入門 1、物理学 CII 電磁気学入門 2、および通信環境システム I を履修していることが望ましい。

TJ080001

授業科目名：情報システム
 科目英訳名：Information Systems
 担当教官：須貝 康雄
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ080001
 開講時限等：3 年後期土曜 1 限
 講義室：

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 情報理論の基礎から応用技術までを概説する。

[目的・目標] デジタル機器や通信技術を理解するための情報理論の成果・技術を修得する。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス及び情報伝送の基礎知識 (1)
2. 情報伝送の基礎知識 (2)
3. 情報量の数値化 (1)
4. 情報量の数値化 (2)
5. 情報源符号化 (1)
6. 情報源符号化 (2)
7. データの圧縮
8. 通信路符号化 (1)
9. 通信路符号化 (2)
10. 誤り検出・訂正符号 (1)
11. 誤り検出・訂正符号 (2)
12. 誤り検出・訂正符号 (3)
13. 伝送路符号化 (1)
14. 伝送路符号化 (2)
15. 予備日

[キーワード] 情報理論, 情報伝送, 情報源符号化, データ圧縮, 通信路符号化, 誤り検出

[教科書・参考書] 教科書：小川英一著「マルチメディア時代の情報理論」, コロナ社

[評価方法・基準] 授業中の演習及び期末試験 (期末試験の代わりにレポートの可能性あり)

[関連科目] 情報理論

[履修要件] 情報理論を履修していることが望ましい。

[備考] 内容を変更する場合がある。このページに注意すること。平成 16 年度は 10/30, 11/6, 11/13, 11/27, 12/4, 12/11, 1/8 の 1, 2 限に行う

授業科目名： システム評価
 科目英訳名： Systems evaluation
 担当教官： 塩田 茂雄
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ060001

開講時限等： 3 年後期月曜 7 限
 講義室： 工 17 号棟 214 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ1:都市環境環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境メ ディアメディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] コンピュータシステム, 情報ネットワーク等の, 現実問題から定式化した様々なシステムの数理モデルを, 確率統計, 待ち行列理論をベースに, 理論的及び数値的に解析し, システム設計等に反映させるための技術について学ぶ.

[目的・目標] システム設計, システム評価に対する性能評価技術の数理的な基礎とその応用を紹介し, 将来, システム技術者を目指す学生, 現実にシステム設計/評価に携わっている社会人が, システム設計/評価に関する, より高度な数学的成果を自分のものとして自由に利用できるようになるための素地を身に付ける.

[授業計画・授業内容] 確率論(確率変数, 期待値, 分散, 母関数, 中心極限定理), 確率過程論(再生過程, マルコフ連鎖, マルコフ過程), 待ち行列理論(ケンドールの記号, リトルの公式, ポラチェック・ヒンチンの公式), 待ち行列理論の応用例(窓口システム/電話回線/WAN 回線の設計)等.

1. 概論
2. 確率の概念, 確率変数, 分布関数
3. 確率変数の例, 期待値
4. 母関数, 独立変数, 極限定理
5. 確率過程, 再生過程, ポアソン過程
6. 時間平均と事象平均, 待ち時間パラドックス
7. 演習
8. マルコフ連鎖, マルコフ過程
9. 待ち行列理論概論, ケンドールの記号, リトルの公式
10. M/G/1 システム, ポラチェックヒンチンの公式
11. M/G/1 システム(続き)
12. M/M/1 システム, M/M/N/N システム
13. 演習
14. 待ち行列理論の応用
15. 試験

[キーワード] 通信システム, インターネット, システム数理, 確率, 統計, 待ち行列, 性能評価

[教科書・参考書] 教科書はなし. 参考図書: 「確率モデルの基礎」遠藤靖(東京電気大学出版局), 「混雑と待ち」高橋幸雄, 森村英典(朝倉書店), 「性能評価の基礎と応用」亀田・紀・李(共立出版), 「確率と確率過程」宮沢政清(近代科学社), 等.

[評価方法・基準] 出席, 演習, 試験の結果を総合的に評価

[関連科目] 統計学 B1 / B2, マルチメディア論

[備考] 英文名称: Performance evaluation

授業科目名：環境エネルギー化学
 科目英訳名：Environmental energy chemical engineering
 担当教官：小倉 裕直
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ084001

開講時限等：3 年後期火曜 6 限
 講義室：工 5 号棟 204 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境メ ディアメディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法] 講義

[授業概要] 資源・エネルギー問題および環境問題の観点から、エネルギー資源および物質資源のリサイクル有効利用システムの設計に必要な基礎を講義する。特に、物理化学における熱力学、化学工学における移動現象論、単位操作を基礎に、エネルギーリサイクルに必要な化学技術理論を解説する。

[目的・目標] CO₂ による地球温暖化問題、NO_x, SO_x による酸性雨問題等の環境問題の多くは、直接的な物質によるものではなく、エネルギー利用によるものであることをまず理解する。そしてエネルギーリサイクルの重要性を認識し、エネルギー変換、リサイクルに必要な物理化学、化学工学および環境工学の基礎を学ぶ。さらに次世代エネルギー有効利用技術によるエネルギーリサイクル有効利用について学ぶ。

[授業計画・授業内容]

1. 化学システムとしての地球環境、資源・エネルギー・リサイクル
2. 物理化学の基本、気体、保存則、熱力学第一法則とエンタルピー
3. 熱力学第二法則とエントロピー、相転移、状態図と自由エネルギー
4. 反応、平衡、イオン、酸・塩基
5. 熱移動 - 伝導、対流、輻射
6. 物質移動、拡散と分子運動
7. 化学反応速度論、溶液反応、固相反応
8. 力学、流れの物質・エネルギー・運動量収支
9. 断熱、熱交換、乾燥、調湿
10. 蒸発、凝縮、蒸留
11. 吸収、吸着、濾過、集塵
12. 蓄熱、ヒートポンプ、ヒートパイプ
13. 次世代エネルギー有効利用技術
14. エネルギー・資源のリサイクル
15. 試験

[キーワード] 資源・エネルギー、物理化学、化学工学、環境工学、リサイクル、ヒートポンプ

[教科書・参考書] 物理化学、化学工学、エネルギー工学の基礎的書籍

[評価方法・基準] 試験および講義への出席で評価する。

[関連科目] 環境材料化学

授業科目名：環境材料化学
 科目英訳名：Environmental Material Science
 担当教官：大坪 泰文
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TJ085001

開講時限等：3 年後期木曜 6 限
 講義室：工 5 号棟 204 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法] 講義

[授業概要] 材料化学を基礎にして資源循環について講義する

[目的・目標] 都市循環系あるいは地球規模で物質の流れをみた場合、人間の活動に有効となる価値を備えた資源、材料としての流れと環境負荷となるゴミ、汚染物質としての流れに分けられる。材料の再資源化、再利用化という観点から都市における物質の流れについて修得する。

[授業計画・授業内容]

1. 概論：資源およびエネルギーの枯渇問題、製品の流れとゴミの流れ
2. ダイオキシン、フロン、酸性雨、環境ホルモン
3. 地球環境とエネルギーの流れ：地球温暖化、砂漠化、ヒートアイランド
4. リサイクル工学（1）：金属のリサイクル
5. リサイクル工学（2）：ガラス、セラミックスのリサイクル
6. リサイクル工学（3）：木材および紙のリサイクル
7. リサイクル工学（4）：プラスチック工学の基礎
8. リサイクル工学（5）：プラスチックのリサイクル
9. 廃棄物処理工学（1）：燃焼工学、エネルギー変換
10. 廃棄物処理工学（2）：酸、アルカリの処理
11. 廃棄物処理工学（3）：高水分有機系廃棄物、微生物処理
12. 廃棄物処理工学（4）：排水処理と排煙処理
13. グリーンケミストリー
14. 産業、ビジネスにおけるリサイクル工学
15. 試験

[キーワード] 資源循環、廃棄物処理、環境負荷

[評価方法・基準] 試験および講義への出席で評価する。

[関連科目] 環境エネルギー化学

授業科目名： 都市計画 II
 科目英訳名： Town and Regional Planning II
 担当教官： 宮脇 勝
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ082001

開講時限等： 3 年前期水曜 6 限
 講義室： 工 17 号棟 214 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 2 年生以上

[授業概要] 景観を切り口とした都市計画とまちづくりの問題に始まり、次第に現代都市計画・現代建築・ランドスケープの諸問題に触れることを特徴とした講義である。

[目的・目標] 都市計画の諸制度の学習と景観計画について学習する。現代社会背景として、1：都市開発と環境保全の間にある諸問題、2：歴史保全と景観に関する諸問題、3：都市デザインの実施のための諸問題、4：中心市街地の衰退と沿道の郊外型開発の問題、5：建築の再生による都心再生、6：市民参加型のまちづくりについて理解する。

[授業計画・授業内容] 1. 問題の提起、2. 日本における景観計画の生成、美観地区と風致地区、3. 都市計画マスタープランと景観マスタープラン、都市計画制度と景観整備の関係、条例、4. 広域の風景計画と屋外広告物条例（都道府県）、5. 都市デザインと景観計画 1（大都市）、6. 都市デザインと景観計画 2（歴史都市）、7. 中間まとめ、8. 景観計画 3 と地区計画（一般市街地）、9. 都市環境計画、10. 田園地域の風景計画、11. 中心市街地の活性化と伝統的建造物群保存地区、12. 都市再生の課題（東京）13. 整理、まとめ

1. 問題の提起
2. 日本における景観計画の生成、美観地区と風致地区
3. 都市計画マスタープランと景観マスタープラン
4. 都市計画制度と景観整備の関係、条例
5. 広域の風景計画と屋外広告物条例（都道府県）
6. 都市デザインと景観計画 1（大都市）
7. 都市デザインと景観計画 2（歴史都市）
8. 中間まとめ
9. 景観計画 3 と地区計画（一般市街地）
10. 都市環境計画
11. 田園地域の風景計画
12. 中心市街地の活性化
13. 伝統的建造物群保存地区
14. 都市再生の課題（東京）
15. 整理、まとめ

[キーワード] 都市計画、景観、風景、都市デザイン

[教科書・参考書] 教科書：日本の風景計画、西村幸夫+町並み研究会編著、学芸出版社、2003 年

[評価方法・基準] 出席点と試験の総合

[関連科目] 都市計画 I、環境プランニング演習 1

授業科目名： 都市計画 III
 科目英訳名： Town and Regional Planning III
 担当教官： 村木 美貴
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ086001

開講時限等： 3 年後期木曜 6 限
 講義室： 工 17 号棟 213 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)		
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)						
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 現代の都市空間、及び都市型プロジェクトがどのような仕組みの上に成り立ち、また良好な都市空間の形成、まちづくりのためにどのようなルールが必要となるのかを具体的に講義する。

[目的・目標] 現代の都市をつくりだしている都市計画、土地利用、まちづくり、都市型プロジェクトの仕組みについて理解することを目的としている。

[授業計画・授業内容] 都市計画制度、都市計画事業について講義する。

1. イントロダクション
2. 開発制御の方法
3. 都市計画と土地
4. 私権の制限と土地利用規制
5. 都市開発への公的関与（1）
6. 都市開発への公的関与（2）
7. 再開発
8. 密集市街地の再整備
9. 都市再生
10. 官民の協力
11. 郊外型住宅地の実際 - ニュータウン
12. 郊外型開発規制と中心市街地
13. サステナビリティと開発
14. 不動産
15. 試験

[キーワード] 都市計画、土地利用、開発規制、まちづくり

[教科書・参考書] 参考書：都市と生活空間の工学（阪本一郎）放送大学、都市計画教科書（都市計画教育研究会編）彰国社、住環境を整備する（住環境の計画編集委員会編）彰国社

[評価方法・基準] 試験

[関連科目] 都市計画 I、都市計画 II

授業科目名：環境プランニング演習 III (計画系クラス)
 科目英訳名：Design and Planning of Urban Environment III
 担当教官：(佐藤 文), (佐々木 聡)
 単位数：2.0 単位 開講時限等：3 年後期土曜 2,3 限
 授業コード：TJ055001, TJ055002 講義室：未定 (工学部)

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
T.J1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
T.J2:都市環境メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 演習

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[目的・目標] 環境プランニング演習 II にひきつづき、プログラムのより複雑で高度な建築・都市のデザインについて構想、企画し、計画を定め総合的にまとめあげるトレーニングを行う。計画に先立つ調査や分析、プレゼンテーションの方法、共同でプロジェクトを進めることもあわせて学習する。

[授業計画・授業内容] 都市・建築の課題を解説し提案する能力を養うため、具体的なフィールドを設定して計画をまとめていく。受講生の計画案に対して適宜指導を行う。環境プランニング演習 II を踏まえて、よりステップアップした課題に取り組む。

[教科書・参考書] 適宜紹介。

[評価方法・基準] 出席と課題提出物により評価。

[履修要件] 環境プランニング演習 II を履修していること。

授業科目名：環境プランニング演習 III (エンジニアリングクラス)
 科目英訳名：Design and Planning of Urban Environment III
 担当教官：近藤 吾郎
 単位数：2.0 単位 開講時限等：3 年後期土曜 2 限
 授業コード：TJ055003 講義室：工 9 号棟 206 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
T.J1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
T.J2:都市環境メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 環境プランニング演習 II にひきつづき、プログラムのより複雑で高度な建築・都市エンジニアリングについて構想し、計画を定め総合的にまとめあげるトレーニングを行う。

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[評価方法・基準] (記述なし)

[関連科目] 構造力学 2 と並行して受講することが望ましい

[履修要件] 環境プランニング演習 II を履修していること。

[備考] 講義室が 5 号棟 104 教室から 9 号棟 206 教室に変更となりました。

授業科目名：メディアプランニング演習 IV (MPIIIA 情報通信システム設計)
 科目英訳名：Seminar for Media Planning IV
 担当教官：(今井 哲郎)
 単位数：2.0 単位 開講時限等：3 年後期土曜 2,3 限 / 後期土曜 4 限
 授業コード：TJ056002, TJ056006, 講義室：工 9 号棟 207 教室 (H17 から使用不可)
 TJ056007

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門必修 (F10)						

[授業の方法] 講義・演習

[目的・目標] 総合的なシステム設計 (2 クラス) 演習を予定する。1) 情報通信システム設計、2) エネルギーシ
ステム設計。

[授業計画・授業内容] [授業計画・授業内容] 1) 情報通信システム設計 (都市における情報通信システムの設計) の
テーマで 1 ~ 2 班、2) エネルギーシステム設計のテーマは、(A) 化学プロセスの分解、解析、合成のテーマで 1
班、(B) 省エネルギー手法とその効果算出のテーマで 1 班、以上 3 ~ 4 班に分かれて講義と演習を進める。1) 班
については土曜日集中形式、2) (A) 班については木曜日 5 時限、2) (B) 班については月曜日の 7 時限に講義と
演習を行う。具体的な演習内容と演習日時の説明、および班分けを授業開始時のガイダンスで行うので、必ず出席
すること。

[評価方法・基準] 講義への出席、およびレポートの成績などで評価する。

授業科目名：メディアプランニング演習 IV (MPIIIB1 化学プロセス)
 科目英訳名：Seminar for Media Planning IV
 担当教官：(塩島 壯夫)
 単位数：2.0 単位 開講時限等：3 年後期木曜 5 限
 授業コード：TJ056004 講義室：工 17 号棟 113 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門必修 (F10)						

[授業の方法]

[目的・目標] 総合的なシステム設計 (2 クラス) 演習を予定する。1) 情報通信システム設計、2) エネルギーシ
ステム設計。

[授業計画・授業内容] [授業計画・授業内容] 1) 情報通信システム設計 (都市における情報通信システムの設計) の
テーマで 1 ~ 2 班、2) エネルギーシステム設計のテーマは、(A) 化学プロセスの分解、解析、合成のテーマで 1
班、(B) 省エネルギー手法とその効果算出のテーマで 1 班、以上 3 ~ 4 班に分かれて講義と演習を進める。1) 班
については土曜日集中形式、2) (A) 班については木曜日 5 時限、2) (B) 班については月曜日の 7 時限に講義と
演習を行う。具体的な演習内容と演習日時の説明、および班分けを授業開始時のガイダンスで行うので、必ず出席
すること。

[評価方法・基準] (記述なし)

授業科目名：メディアプランニング演習 IV (MPIIB2 エネルギーシステム設計)
 科目英訳名：Seminar for Media Planning IV
 担当教官：(藤間 克巳)
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：3 年後期月曜 7 限
 授業コード：TJ056005
 講義室：工 17 号棟 特別教室 (H17 から使用不可)

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TJ1:都市環境 環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門必修 (F10)						

[授業の方法]

[目的・目標] 総合的なシステム設計(2クラス)演習を予定する。1)情報通信システム設計、2)エネルギーシステム設計。

[授業計画・授業内容] [授業計画・授業内容] 1)情報通信システム設計(都市における情報通信システムの設計)のテーマで1~2班、2)エネルギーシステム設計のテーマは、(A)化学プロセスの分解、解析、合成のテーマで1班、(B)省エネルギー手法とその効果算出のテーマで1班、以上3~4班に分かれて講義と演習を進める。1)班については土曜日集中形式、2)(A)班については木曜日5時限、2)(B)班については月曜日の7時限に講義と演習を行う。具体的な演習内容と演習日時の説明、および班分けを授業開始時のガイダンスで行うので、必ず出席すること。

[評価方法・基準] (記述なし)

授業科目名：環境工学 II
 科目英訳名：Environmental Science II
 担当教官：宮田 紀元
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：4 年前期月曜 6 限
 授業コード：TJ058101
 講義室：工 9 号棟 106 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 建築物の内外における熱・空気環境、光環境等の基礎と適切な熱・空気環境、光環境等の形成に必要な建築技術を概説する。併せて、地球環境・水環境といった広い視野の問題についても取り扱う。

[目的・目標] 居住環境における要素の理解と建築技術への適用について学習する。数式で語られることの多い環境工学的知識を如何に視覚的なイメージとして理解できるかという点に重きを置く。

[授業計画・授業内容]

1. 総論「地球環境」
2. 総論「都市環境」
3. 光「光の基礎と評価」
4. 光「日照と採光」
5. 光「照明と色彩の計画」
6. 熱「伝熱の基礎と熱環境」
7. 熱「水と湿気対策」
8. 熱「省エネルギーと快適性」

9. 空気「空気質」
10. 空気「換気・風」
11. 音「音の性質と評価」
12. 音「音対策」
13. 「人の健康と建築環境工学の役割」
14. 「環境性能評価の実例」
15. 試験

[キーワード] 熱・空気環境、光環境、環境負荷低減手法

[評価方法・基準] (記述なし)

TJ059101

授業科目名： 建築経営論
 科目英訳名： Architectural Management
 担当教官： (田中 修一)
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ059101

開講時限等： 4 年前期水曜 6 限
 講義室： 工 15 号棟 110 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度							学科 コース	入学年度
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TE:都市環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	T9:建築 B	1997 年 専門選 択 (F30)
TJ1:都市環境環 境	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)	専門選 択必修 (F10)		
TJ2:都市環境メ ディアメディア	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)		

[授業の方法] 講義

[受入人数] 70

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] 経営 (management) とは manage (制御する・操る) 行為である。では建築に関してそのことをどう生かすか。生産としての Building だけではなく、建築界全般に関して architecture (建築) に関する経営理念の必要性を認識する。

[目的・目標] 建築は建築主の要請に基づいて建てられる。しかしまちづくりの一環として、そこには官民を問わず社会性を基盤とする前提が必要である。単に建築主の意図で行われることに任せてはならない。時代背景・経済的条件・社会的要請などを元に、生産者の経営ではなく、建築そのものがいかに経営されるべきであるのか。そのコントロールの方法が建築経営であることを知る。

[授業計画・授業内容]

1. 建築を構成する社会
2. それぞれの構成組織の経営概念と建設総量の把握
3. 建築の経営とは
4. 歴史的背景と現状の展開 (なぜこの建物があるのか)
5. 建築の持つ社会性
6. 建築事業の手法 1
7. 建築事業の手法 2
8. 設計と施工 (その立脚点の違い)
9. 発注方式の種類と特徴
10. 建築する目的の分析 (建築事業計画)
11. 立地条件の把握 (事業的的確性の調査方法)
12. 資金と経済性 (事業の成立条件を探る・収支計画)
13. タイムスケジュール (企画から竣工まで)

14. 試験

15. 総評

[キーワード] 建築は生きて在るもの

[教科書・参考書] 建築事業のファイナンス、田中修一著、彰国社

[評価方法・基準] 期末試験

TJ061001

授業科目名： 環境基礎解析 II
 科目英訳名： Environment Mathematics II
 担当教官： 腰越 秀之
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TJ061001
 開講時限等： 4 年前期水曜 6 限
 講義室： 工 17 号棟 212 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ1:都市環境環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境メ ディアメディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法] 講義

[授業概要] 環境数理問題に現れる緒現象を数理的に解析するための基礎的資質を養うことを目的に講義する。この講義では、現象を数理的に記述するためのモデリングとその解析方法及び数値計算法について考察する。

[目的・目標] 数理問題に対するモデリングとその解析方法及び数値計算法の基礎について修得することが目標である。なお、授業内容の重点は、隔年で異なり、偶数年は、高速フーリエ変換 (FFT)、奇数年は、差分法と数値計算の修得を目的としている。

[授業計画・授業内容] 「環境基礎解析 I」では、フーリエ変換などの解析的方法を用いて、数理モデルのシミュレーションを行なった。この「環境基礎解析 II」では、数理モデルの離散化手法とその数値計算法について講義する。今年度の講義内容は次の通りである。

1. 環境数理問題のモデル化と偏微分方程式
2. 偏微分方程式と離散化方程式 (1)
3. 偏微分方程式と離散化方程式 (2)
4. 数値積分法
5. 離散フーリエ変換 (DFT)
6. 高速フーリエ変換 (FFT) (1)
7. 高速フーリエ変換 (FFT) (2)
8. 偏微分方程式と FFT (1)
9. 偏微分方程式と FFT (2)
10. 数式処理ソフトウェアによる計算 (1)
11. 数式処理ソフトウェアによる計算 (2)
12. FFT とデジタル信号処理 (1)
13. FFT とデジタル信号処理 (2)
14. 数式処理ソフトウェアによる計算 (3)
15. 期末試験

[キーワード] 離散化方程式、数値計算、数式処理

[評価方法・基準] 講義への出席、レポート、期末試験を基に評価する。

[履修要件] 「フーリエ解析」を受講していることが望ましい。

授業科目名： 都市環境マネージメント I

科目英訳名： Urban Environment Management I

担当教官： (塩島 壯夫)

単位数： 2.0 単位

開講時限等： 4 年前期木曜 7 限

授業コード： TJ063001

講義室： 工 5 号棟 204 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザイン A 建築						専門選択 (F30)	
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)					
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法]

[目的・目標] 今日我々の生活になくてはならない石油資源のエネルギーや基礎化学品への変換方法・利用法を学び、その過程で生じる環境問題について考える。また、種々の問題に対し、政府や企業がどのように対処しようとしているか、新エネルギー、環境にやさしい化学品開発活動を含め学ぶ。

[授業計画・授業内容] 生活におけるエネルギーとしての石油、材料としての石油新しいエネルギー、材料源

1. エネルギーの種類、エネルギーの消費と環境
2. 石油資源の概要、石油と経済
3. 原油から石油製品を作る石油精製プロセス。石油製品規格と環境
4. 省エネルギーの必要性、省エネルギー技術と経済性
5. 省エネルギー事例
6. 石油製品規格と公害対策概観
7. 自動車排ガス対策と環境保全
8. 石油に代わるエネルギー・新エネルギー最近の省エネルギー熱電利用
9. 化学原料としての石油資源高分子化学製品（汎用五大樹脂）
10. 高分子化学製品（エンジニヤリング樹脂）
11. 発電所建設に係わる環境アセスメント
12. 高分子成型加工
13. 高分子と環境問題
14. 環境と企業活動（事故による環境破壊、企業倫理）
15. 討議と演習用の予備

[キーワード] 石油、エネルギー、化学製品、環境問題

[評価方法・基準] 筆記試験

[備考] 特になし

TJ064001

授業科目名： 都市環境システム特別セミナー II
 科目英訳名： Special Sminar in Urban Environment Systems II
 担当教官： 都市環未定
 単位数： 2.0 単位
 開講時限等： 4 年前期集中
 授業コード： TJ064001 講義室：

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度 1997 年
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
T.J1:都市環境 環境	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	T9:建築 B	専門選択 (F30)
T.J2:都市環境 メディア	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		

[授業の方法]

[目的・目標] 都市環境システムの学習を進める上で、重要と思われるトピックスについて 実務として活躍している学外講師による入門・解説・応用の講座である。

[授業計画・授業内容] (記述なし)

[評価方法・基準] (記述なし)

TJ065101

授業科目名： 卒業演習
 科目英訳名： Graduation Seminar
 担当教官： 大坪 泰文, 柘植 喜治
 単位数： 2.0 単位
 開講時限等： 4 年前期集中
 授業コード： TJ065101 講義室：

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
T.J1:都市環境 環境	専門選 択必修 (F20)						
T.J2:都市環境 メディア	専門選 択必修 (F20)						

[目的・目標] 都市環境システムに関連した学術論文等を題材にしなが、基礎理解力の向上とともに、都市計画、環境問題、都市基盤整備等々の具体的な課題における調査を行い、企画力・総合力の向上を図ることを目的とする。卒業研究へ進むための導入科目である。

[授業計画・授業内容] 各学生は研究室に所属し、各教官から個別に指導を受ける。各研究室中心に調査・研究の報告など基本的なプレゼンテーションを行い、個別に評価される。

[評価方法・基準] (記述なし)

TJ065301

授業科目名： 卒業研究
 科目英訳名： Graduation Research
 担当教官： 都市環境全教官
 単位数： 4.0 単位
 開講時限等： 4 年後期集中
 授業コード： TJ065301 講義室：

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
T.J:都市環境 B	専門選 択必修 (F20)						
T.J1:都市環境 環境	専門選 択必修 (F20)						
T.J2:都市環境 メディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法]

[目的・目標] 学生毎に都市環境システムに関連する研究課題を特定し、十分な体験と理解および新しい知見が得られるように学生の個性と能力に合った個別指導を行い、研究・計画など総合能力を高めることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 各学生は研究室に所属し、各教官から個別に指導を受ける。卒業演習から継続する主体的なテーマをもって研究・計画を行う。最終的に卒業研究発表会を行い個別に評価される。

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 入学時に配布された「履修課程」を参照のこと。

TJ066001

授業科目名：都市環境マネジメント II
 科目英訳名：Urban Environment Management II
 担当教官：(鈴木 直人)
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：4 年後期木曜 6 限
 授業コード：TJ066001
 講義室：工 17 号棟 211 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ:都市環境 B	専門選 択科目 (F36)						
TJ1:都市環境環 境	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)
TJ2:都市環境メ ディアメディア	専門選 択必修 (F20)						

[授業の方法] 講義・発表

[授業概要] 「持続する環境・開発」に関する英語文献を参照し、グローバル化の過程の中で如何に望ましい途上国開発を推進していくかに関し理解力を高める。特に中小企業育成、貿易・投資促進の課題を理解しつつ、その開発手法（BDS マーケット育成手法、産業クラスター育成手法、企業化調査手法）を学ぶ。適宜、関連課題に対し意見をグループ別に議論し発表しをする。

[目的・目標] 国際社会の一員として「持続する開発」に対し責任を持った対応をしていくには開発手法に対する理解、問題点の正しい把握が必要とされる。近年、政府主導型開発援助が批判を浴びる中、個人として途上国援助に対する正しい理解力を持ち、建設的な意見を持つ必要がある。当講座は「持続する開発」に関する理解力を高めること、異なった開発手法を理解すること。そしてその開発活動の一環を担う人材の育成を目的とする。

[授業計画・授業内容] 講義を主体として、適宜課題ごとにグループ別に議論し発表する。

1. Development Issues
2. Official Development Aid
3. Poverty and Poverty Reduction
4. Development Specialists
5. Globalization Process
6. World Summit for Sustainable Development
7. UN Global Compact
8. Corporate Social Responsibility
9. Structural Adjustment Policy
10. BDS Market Development
11. BDS Market Development
12. Feasibility Study Methodology
13. Feasibility Study Methodology
14. Feasibility Study Methodology
15. 総括、試験

[キーワード] 貧困対策、持続可能な途上国開発、シビルソサイティの参加する援助

[評価方法・基準] グループごとの発表内容の評価、試験